

愛知医科大学学報



令和6年度総合防災訓練（関連記事3頁）

＝ 第176号 ＝

2024.10月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

— 愛知医科大学ホームページアドレス —

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和6年度総合防災訓練実施……………	3
令和7年度予算編成方針……………	4
遺贈協定締結式挙行……………	9
アドミッションセンターの設置……………	10
教授就任インタビュー……………	15
文部科学省「数理・データサイエンス・ AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定…	16
令和6年度オープンキャンパス開催……………	17
2024年度医学部白衣式挙行……………	20
大学病院の中央診療部に新たな部門設置……	30

日本私立医科大学協会理事会（拡大）の本学開催

令和6年10月10日（木）に、本学が加盟している一般社団法人日本私立医科大学協会の第370回理事会（拡大）が、本学において開催されました。同協会では、年に一度、加盟大学が持ち回りで当番校となって理事会（拡大）を開催しており、本学が当番校となるのは平成4年以来約30年振りのことでした。

同協会には、全国の医学部を持つ私立大学30校が加盟しており、全国的に非常に厳しい状況にある私立医科大学の現状に対する理解と支持を集め、かかる現状を打開するための対応に取り組むとともに、大学所期の目的達成に向けて邁進することを事業内容としています。

当日は、私立医科大学の理事長、学長等の協会会員、協会関係者合わせて35名が来学され、三役会、施設見学、理事会（拡大）、懇親会が行われました。

施設見学では、3班に分かれて「ドクターヘリ・格納庫」、「新リハビリセンター」、「日本造血細胞移植データセンター」を見学していただき、それぞれの責任者である救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授、リハビリテーション医学講座の尾川貴洋教授、日本造血細胞移植データセンターの熱田由子センター長から当該施設の概要等の説明がありました。また、最後に「ドクターヘリ・格納庫」を見学した班には、出動要請に応じてドクターヘリが飛び立つ様子も見学していただくことができ、施設見学全体を通して、本学の特色あるキャンパスをご紹介することができました。

施設見学終了後、大学本館4階第1会議室において午後2時30分から理事会（拡大）が開催され、その後、名古屋市東区白壁にある「料亭か茂免」に移動し、午後5時30分から懇親会が開催されました。懇親会では愛知大学文学部長の山田邦明氏をお招きし、本学が所在する長久手市に因んで「小牧・長久



施設見学の様子



理事会（拡大）の様子



懇親会の様子

手の戦い」についてご講演いただき、午後7時30分頃盛会裡に終了しました。

今後も本学の魅力を発信するとともに、他の私立医科大学とも情報共有を図りながら、本学の発展を目指して参ります。

令和6年度総合防災訓練実施

愛知医科大学消防計画・大規模災害対策マニュアル及び愛知医科大学病院事業継続計画に基づき、教職員各自が果たすべき役割を確認するとともに被害の拡大を少しでも抑えることを目的として、令和6年10月17日（木）に教職員・学生合わせて約1,000人規模の総合防災訓練が行われました。

今回の訓練は昨年度と同様、南海トラフ地震でマグニチュード9.0、震源地は熊野灘沖フィリピン海プレート、南海トラフとして長久手市で震度6強の地震を観測、病院機能は一部麻痺しているものの患者受け入れは行うことを想定し実施されました。

大学では学生避難誘導訓練や尾三消防本部の消防隊員指導による水消火器を使用した消火訓練、応急処置訓練やエアーストレッチャー訓練等の体験型訓練、医療用コンテナの視察や「災害時取るべき行動」などの防災講義が行われました。

病院では事業継続計画（BCP）に基づき、被災状況報告（第一次、第二次）の検証が行われました。また、教職員や患者、ライフライン等の被災状況把握、トリアージ訓練、指揮命令系統の確認など災害時の対応について訓練が行われました。

法人本部ではライフラインや大学建物等の被災状況調査訓練、災害備蓄品搬送訓練等が行われました。更に非常用設備等の視察を行い、ライフライン設備について再確認しました。

本部の検証会では、訓練を通して抽出された課題を共有し、今後の防災対策に活かすための意見交換が行われました。

昨今では、令和6年1月1日（月）に能登半島地震が発生しました。また、8月8日（木）には日向灘を震源とする最大震度6弱、マグニチュード7.1の地震が発生し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されました。日本は地震大国と言われており、日頃から防災意識を高めておく必要があ



学生の煙ハウス体験



学生の消火訓練



病院のトリアージ訓練



法人本部の災害備蓄品搬送訓練

ります。今回の総合防災訓練を通じて、教職員や学生は防災対策の重要性について再認識しました。一人ひとりが防災意識を高め、実際の災害時に冷静かつ的確に行動できるよう、今後もより実りある防災訓練を行って参ります。

令和7年度予算編成方針

I 基本方針

コロナ禍の影響を受ける最終年度となった令和5年度の決算額は、前年度決算に比べ、事業活動収入が約461百万円減の約54,843百万円、事業活動支出が約2,103百万円増の約57,364百万円であり、企業会計の損益計算書でいうところの当期純利益は、約△2,522百万円と令和になってから初めての赤字決算となりました。令和2年度からの4年間はコロナ禍の影響を受け、数々の新型コロナウイルス感染症対策支援が行われました。本学ではこの間、令和元年度を初年度とする5年間の中期計画に基づく医療財政基盤確立に向けて、各種イノベーションを推進すると同時に黒字を維持してきました。中期計画最終年度となる令和5年度は引き続き事業規模の拡大を伴う積極姿勢の予算を編成し、その効果としての収益向上は、これまでの投資分を含め令和5年度後半から発現してくると期待されましたが、時間差が生じ、コロナ禍中の4年間を通じては黒字を維持したものの、令和5年度単年度における決算の数字は大変厳しいものになりました。

令和6年度は医療収入が大きく増収し、収支は改善してきてはおりますが、光熱費の高騰、物価の上昇とこれに伴う人件費や委託料の上昇圧力が大きく、医療収入のベースとなる診療報酬改定幅についても大幅な増収とはならず、収支見通しは厳しさが浮かび上がります。

事業基盤の強化のために令和元年から進めてきたメディカルセンター及び眼科クリニックMiRAIの開院、外来化学療法拡充、TACU（経過観察入院病棟）、救急・災害管理棟等の建設、稼働病床53床の復床、アクションプランの実施、効果的なインセンティブの配分方法など、様々な施策を実施してきました。一連のプロジェクトの締めくくりとなる新リ

ハビリテーションセンターは、令和7年1月に運用を開始し、フルラインナップで令和7年度を迎えることとなります。

収入の根幹となる医療収入を支える役割を担うこれらの取り組みは、いよいよ本格稼働のフェーズとなりました。当初計画した事業効果を着実に得られるように事業を進め、次への投資に繋げていかなければ、本学の将来に向けた更なる発展が描けません。一方で、支出面では引き続きコスト増の圧力が続き、加えて施設設備の老朽化対策経費の増加が見込まれているところであり、経常収支黒字に向けてコストの削減を継続していかなければなりません。

こうした状況を踏まえ、令和7年度予算編成においては、質の高い教育・研究・診療を維持しながら次なる発展に向けた投資を行っていくこと、そして新たに令和6年度からスタートした中期計画の実行には、安定した財政基盤が必要不可欠であり、中長期の視点からも持続可能な財政運営に向けた取り組みを計画的に展開していく必要があることから、各事業の「スクラップ&ビルド」、「選択と集中」の指向をこれまで以上に強めていく必要があります。

II 重点事業

令和7年度予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の積み上げ目標金額を10億円とし、事業活動収支予算ベースでは、経常収支の黒字予算確保を図ることとします。

上記の考えを具体の予算に反映するため、各編成単位においては中長期的な観点に立った次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めることとし、定量的な成果が見込める事業を厳選します。

<重点事業の目的>

- | | | | |
|-----|---------------------------|-----|-----------------------------|
| 1 | 教育機関としての成果が期待できる事業 | 4-6 | 人件費再配分計画（働き方改革に伴う手当の見直し） |
| 2 | 研究支援体制の強化に係る事業 | 5 | 私立大学等改革総合支援事業対策 |
| 3 | 病院の機能活性化推進事業 | 6 | 創立50周年記念事業 |
| 4-1 | 診療科別医療収入予算 | 7 | イノベーションプロジェクト事業 |
| 4-2 | 医療収入に係る直接材料費 | 8-1 | 大学・病院の機能維持に必要な大規模修繕工事（年次計画） |
| 4-3 | 人件費（法人全体） | 8-2 | 高額医療機器の更新計画（年次計画） |
| 4-4 | 人件費再配分計画（財源確保が明確な人員増） | 9 | 厳に必要となる事業で、予算会議での議論を要するもの |
| 4-5 | 人件費再配分計画（業務の効率化に伴う定数の見直し） | | |

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金のご協力をお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

愛知医科大学は、昭和46年に設置認可を受け、翌昭和47年4月に医学部の第1回生を迎え入れました。その後、大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院体制となっています。

本学は「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、学是「具眼考究」の理念の下、教育・研究・診療の各分野で勇往邁進に取り組んで参りました。

今後、更に社会から評価され、選ばれる医療人の育成、安心・安全の信頼できる先進医療の提供、地域とともに歩む医療の推進、新たな医学・医療の開拓、将来へ向けたキャリアパスの描ける場の提供など、時代の変化に合わせた、あるいは先取りする柔軟な変革に取り組んで参ります。

より良い大学、より良い病院となるため、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

① 募金目的

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業

② 募金1口のコスト

個人：1万円 法人：5万円

（できるだけ多数口のご支援をお願いします）

③ 税制優遇措置

個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等

法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の方法

<書面（郵送）>

- ・本学HPから必要な書類をダウンロード又は本学から書類を送付します。
- ・寄附申込後、別途お振込みなどをお願い致します。

<インターネット>

- ・本学HPから直接お申込みいただき、次のようなお支払いができます。



顕彰について

- ① 広報誌・ホームページ等での寄附者の御芳名（個人名、法人名）
- ② 個人10万円以上（累計）、法人50万円以上（累計）寄附者御芳名（プレート）
- ③ 個人100万円以上（累計）寄附者御芳名（タイル）



プレート芳名板
（大学本館1階ロビー）



タイル芳名板
（中央棟エントランスウェイ西側）

お問い合わせ

学校法人愛知医科大学

資金・出納室

☎ 0561-63-1062

E-mail: sikin@aichi-med-u.ac.jp



インターネットからでも寄附ができます。

愛知医大 募金



創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名 (敬称略)

平成30年4月から開始しました「創立50周年記念事業募金（創立50周年に向け先行した教育・研究・診療の基盤整備事業募金含む）につきましては、数多くの皆さまのご芳志に支えられ、令和6年3月末日をもって終了致しました。

ご寄附をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を五十音順に掲載させていただきます。

(平成30年4月1日～令和6年3月31日現在)

募金総額：1,206,823,700円 募金者数：個人 907件 法人・団体 222件

<個人>

青木 重久	青鹿 昌純	青山 邦彦	青山 俊博	青山 正寛	青山 裕	秋山 邦夫
秋山 征巳	浅井 和子	朝井 規仁	浅井 紀裕	浅井 博行	浅野 公造	浅野 貴徳
足立 義一	渥美 一成	阿部 綾香	天池 要治	天野 哲也	天野 光人	雨宮 三保子
鮎川 浩志	有木 玄	有馬 隆紘	有村 隆	有賀 雅和	安藤 靖	飯田 章人
飯田 和子	池田 亜紀	池田 勇	池田 樹一	井澤 一宏	石川 厚子	石川 俊一
石澤 義也	石島 正嗣	石田 漂太	伊地知 直樹	石橋 宏之	石橋 美和	石原 幸司
石原 成光	出田 祐久	泉 雅之	井田 雅章	市川 嘉一	市野 光太郎	伊藤 昭和
伊藤 恵一	伊藤 英明子	伊藤 孝太郎	伊藤 壽美	伊藤 后子	伊藤 恭彦	犬丸 達也
井上 順子	井上 里恵	今井 紀子	今井 裕一	今枝 佑輔	岩田 裕次	岩船 徹雄
岩村 文貴	上野 隆彦	植村 敏男	宇佐美 覚了	宇佐美 公子	牛田 享宏	臼井 達哉
内田 稔也	内山 弘子	内海 眞	梅田 京子	上森 文裕	戎井 浩二	遠迫 克昭
遠藤 真琴	老沼 和弘	大下 孝史	大須賀 友晃	太田 浩敏	大継 一博	大野 和子
大野 晃司	大野 則和	大橋 由政	大山 哲	岡 義隆	岡川 友子	岡川 行重
岡澤 光修	岡田 永三	岡田 耕一	緒方 昌平	岡田 太郎	岡留 淳	岡野 敏明
岡野 七重	岡本 英文	岡本 雄一	岡本 利一	小川 麻子	小川 徳雄	奥田 直樹
奥永 知宏	奥山 誠	長田 和久	折本 有貴	各務 秀明	景山 和幸	笠井 謙次
葛西 博幸	梶浦 克之	梶浦 義弘	春日 慎一	春日井 邦夫	春日井 孝	片井 明子
片桐 仁	勝野 正英	加藤 和紀	加藤 浩二	加藤 純子	加藤 豊文	加藤 宏泰
加藤 正治	加藤 雅通	加藤 学	加藤 允資	加藤 唯	加藤 庸子	加藤 芳幸
加藤 龍寿	金谷 雄生	金桶 陽	鎌田 泰弘	上梨 英雄	神谷 英紀	神谷 美帆
狩浦 一男	河井 丈幸	川崎 恭典	川澄 本明	川谷 陽子	川出 博彦	河出 恭雅
川本 恵子	河本 博喜	神戸 康秀	完山 秋子	完山 紘平	完山 泰章	岸 竜也
岸川 典明	岸下 雅光	岸本 知樹	木下 雄一郎	木原 幹洋	金 節子	木村 光利
木村 行宏	金 日成	草場 靖	工藤 淳三	久野 健一	久野 里佳	久保 昭仁
久保田 雅博	黒川 道雄	黒木 玲子	小石 洋和	小泉 直人	小出 詠子	合田 操
幸野 照	河野 宗平	小柴 栄	小島 順司	小杉 将仙	小塚 聡	小天 和也
後藤 淳	後藤 英之	後藤 雄州	後藤 八千代	小西 健一	小林 加奈子	小林 孝彰
小林 徹	小林 博文	小林 史樹	小林 良太	小森 直之	小森 睦美	小山 隆
近藤 桂一	近藤 忍	近藤 千津子	近藤 瑞枝	佐井 紹徳	齋藤 隆司	齋藤 庸男
齋藤 誠	齋藤 京子	齋藤 照男	西塔 誠幸	才村 弘也	三枝 純一	堺 潤
酒井 有理	榊原 綾子	坂田 久美子	坂田 充啓	坂巻 隆男	坂本 真理子	坂本 洋子
桜井 礼二	佐々木 拓次	佐々木 裕茂	佐々木 誠人	佐々木 祐一郎	佐藤 千代香	佐藤 元彦
佐藤 ゆか	佐藤 良幸	實政 裕	佐野 倫生	塩見 利明	篠原 康一	篠原 早紀
柴野 英典	柴山 始久	島田 孝一	嶋吉 敏文	志水 明浩	清水 國樹	清水 宗久
清水口 彩加	心光 世津子	菅村 一敬	杉浦 むつみ	杉田 威一郎	杉本 泰洋	鈴木 幸司
鈴木 伸	鈴木 信吉	鈴木 泰子	鈴木 諒治	住田 香澄	関 忍	千田 憲一
千田 弘子	宗宮 教壹	園田 和生	祖父江 元	高田 勝	高田 麻哉子	高橋 佳子
高橋 進	高橋 孝子	高橋 知生	高橋 靖弘	高見 昭良	高村 祥子	高柳 友子
高柳 泰世	武居 敦英	武田 秋生	竹田 幸祐	武田 千代子	竹原 俊夫	竹原 成浩
竹本 昌三郎	多湖 千晃	多々内 友美子	田所 久徳	田中 一字	田中 一正	田中 信彦
田中 英成	田中 正彦	田中 元和	田中 元子	田中 元也	田邊 和彦	田邊 直樹

玉田 としこ	塚 晴俊	番井 利恵	塚本 芳春	築山 郁人	月山 啓	對馬 伸晃
津田 信幸	都築 豊徳	都築 史恵	角田 久美子	土井 浩史	堂森 丈正	遠山 美智子
富樫 孝	富樫 元	十倉 佳史	戸谷 信雄	戸塚 伸吉	戸堂 耕造	富田 幸嗣
富田 裕一	富永 二郎	友松 孝治	内藤 千裕	内藤 宏昌	永井 孝憲	長尾 喜一郎
中川 洋	中川 昌之	中川 喜博	中川 玲子	中迫 博英	中島 隆世	中島 鉄夫
中嶋 博久	中筋 名保恵	永田 浩司	中田 知男	仲谷 宗裕	長縄 三千代	中西 照明
中野 久美	中野 正吾	中村 悟己	中村 尚登	中村 博文	中村 誠	中村 雄太
中村 陽介	中本 勉	中山 貴子	成田 篤彦	成田 憲治	成田 祥子	生川 剛史
西井 裕和	西田 恒紀	西塚 麻代	西村 基	西山 耕	西山 幸男	西脇 晶子
野崎 宗信	野場 万司	萩原 昇	萩原 良治	橋本 英樹	長谷川 恒雄	服部 克久
羽根田 雅巳	馬場 幸男	早川 千代子	林 和子	林 清博	林 宜子	林 秀彦
林 博子	林 基志	林 嘉輝	葉山 国城	原 遠	原田 一志	原田 直明
比嘉 智子	肥後 夏月	樋上 啓子	樋上 泰成	平野 達也	廣岡 聖也	廣川 光之
廣瀬 真仁	廣瀬 善清	廣瀬 善道	深井 健一	深田 大	福井 高幸	福岡 孝泰
福岡 長子	福澤 嘉孝	福智 寿彦	福山 俊彦	藤井 繁樹	藤澤 恵児	藤田 清文
藤田 守彦	藤林 孝義	藤本 保志	藤原 祥裕	二神 正文	二村 真秀	古井 景
古岡 邦人	古川 洋志	古田 朋子	星野 真貴子	細川 好孝	堀田 幸嗣	堀田 昌宏
堀部 博	堀本 恵子	本多 晃	前田 一成	牧野 吉秀	増岡 尚子	榊田 勝仁
間瀬 武則	町田 一枝	町田 智美	町田 竜介	松井 康哲	松尾 高嗣	松岡 哲平
松川 景	松平 早苗	松平 仁	松原 史朗	松本 拓也	松本 芳子	松山 英里子
松山 華奈美	三浦 久美子	三嶋 廣繁	三嶋 由充子	水谷 正子	水野 昌平	水野 真理
水本 強一	三岡 裕貴	水上 葉子	箕浦 恵	三宅 知子	宮下 直人	宮地 茂
宮本 知	三輪 一真	村上 恒久	村松 忠	森 隆史	森 俊彰	森 雅典
森 泰男	森内 幹	森川 彰子	森川 晋吾	森田 絵万	森永 敏文	森永 ゆい子
諸隈 琢	安井 修	安井 幸藏	矢田 雄滋	柳 利男	柳澤 和裕	柳原 崇
矢野 克明	矢野 浩一郎	矢野 智紀	山尾 令	山尾 ひろみ	山川 ありさ	山川 日出雄
山口 孝太郎	山口 力	山崎 節正	山田 大介	山田 敏子	山田 徳行	山田 晴生
山田 昌樹	山田 佳史	山中 寛紀	山本 順一郎	山本 千廣	山本 秀明	山本 祐歌
山本 美子	山森 孝彦	梁 裕昭	弓倉 宏志	横内 定明	吉江 康二	吉田 一亮
吉本 尚和	羅 秀玉	若杉 里実	若槻 明彦	若林 夏樹	脇田 慎司	早稲田 勝久
渡邊 栄三	渡辺 敬子	渡邊 大輔	渡辺 貴昭	渡邊 寿則	渡邊 一司	渡邊 人啓
渡邊 慎	渡會 恒久					

匿名 259件

<法人・団体>

医療法人相生会稲川耳鼻咽喉科	一般財団法人愛知医科大学愛恵会	愛知医科大学医学部後援会
愛知医科大学看護学部同窓会	愛知医科大学看護学部父母会	一般社団法人愛知医科大学同窓会
愛知医大サービス株式会社	あいち尾東農業協同組合	医療法人あおい皮フ科クリニック
朝日機器株式会社	株式会社梓設計	安藤建設株式会社
医療法人社団生き生き会	医療法人社団石塚内科医院	有限会社ウエルコム
医療法人H&H	株式会社エバ	株式会社エフエスナゴヤ
オオサキメディカル株式会社	株式会社オーテック環境システム事業部中部支店	株式会社大林組名古屋支店
株式会社オカムラ	株式会社カーク	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
鹿島建設株式会社中部支店	鹿島建物総合管理株式会社中部支社	川重冷熱工業株式会社
医療法人社団喜峰会東海記念病院	医療法人社団京愛会	株式会社きんでん中部支社
医療法人久和会	医療法人樺の森	けんこう長寿株式会社
医療法人健美会	株式会社コアズ	医療法人絃心会
医療法人幸信会とみやす整形外科クリニック	医療法人香徳会	国際ロータリー第2760地区WFF実行委員会
株式会社サーティーフォー	医療法人幸会	医療法人社団さかいファミリークリニック
株式会社桜木不動産コンサルタント	三機工業株式会社中部支社	三友電子株式会社
シーアンドエス株式会社	株式会社シーエナジー	有限会社シーメディックス

医療法人篠崎医院	株式会社篠田商会	医療法人社団洵和会
医療法人湘山会眼科三宅病院	医療法人勝心会芳賀クリニック	医療法人如水会
医療法人如水会鈴鹿腎クリニック	有限会社シルバーホームほのぼの	医療法人社団崇仁会船戸クリニック
医療法人スズムラ眼科医院	医療法人すまいる皮フ科クリニック	星光ビル管理株式会社
積水メディカル株式会社	瀬戸信用金庫	株式会社セレスボ名古屋支店
医療法人創喜会	株式会社ソラスト名古屋支社	タイガー総業株式会社
医療法人社団泰成会	医療法人社団大誠会	社会医療法人大雄会
医療法人竹村医院	株式会社タスクフォース名古屋支店	株式会社田中葬具店
中部電力ミライズ株式会社	中部連合読売会	株式会社ツムラ
TMES株式会社	寺脇産業株式会社	電子システム株式会社
医療法人東海眼科	株式会社東海メディカルプロダクツ	東京音楽工業株式会社
株式会社トーエネック	株式会社トーカイ	トーテックビジネスサポート株式会社
豊田信用金庫	株式会社トラム	医療法人長尾会・ねや川サナトリウム
中尾産業株式会社	株式会社ナカシマ	中日本航空株式会社
株式会社名古屋医理科商会	株式会社名古屋銀行	ナゴヤホカンファシリティーズ株式会社
医療法人にのみ歯科医院	株式会社ニチイ学館	株式会社日中物産
日本空調サービス株式会社	日本建築検査機構株式会社	一般社団法人日本造血細胞移植データセンター
株式会社庭萬	ネットワンシステムズ株式会社	株式会社馬場器械店
日の出衛生保繕株式会社	医療法人平竹クリニック	医療法人福智会
医療法人福智会すずかけクリニック	医療法人福友会	不二印刷工業株式会社
富士産業株式会社	医療法人ふれあい会	医療法人ほうしょう会
株式会社堀場測量設計	株式会社マイナビ	三浦工業株式会社春日井支店
医療法人美衣会衣ヶ原病院	三菱HCキャピタル株式会社中部第一営業部	三菱電機ビルソリューションズ株式会社中部支社
医療法人みなと	ミヤリサン製薬株式会社	医療法人陸会福井眼科
村角工業株式会社	医療法人明眼会西垣眼科医院	名鉄バス株式会社
株式会社メック	医療法人もみじ会田崎医院	医療法人社団八洲会袋井みつかわ病院
株式会社山菊	株式会社山岸設備	株式会社山下設計
医療法人行橋クリニック	株式会社ライス加納	理科研株式会社
株式会社リイツメディカル	医療法人る・ぶてい・らばん	医療法人和光会
ワタキューセイモア株式会社		

匿名 34件

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（創立50周年記念事業募金）においても掲載しています。

役員・評議員の異動

【評議員】

退 任 服部 達哉（令和6年9月30日付）

就 任 山根 則夫（任期：令和6年10月1日～令和7年1月27日）

三井住友銀行及び名古屋銀行との遺贈協定締結式挙行

本学では、このたび株式会社三井住友銀行及び株式会社名古屋銀行との「遺贈希望者に対する遺言信託業務の紹介に関する協定」（遺贈協定）を締結することとなり、令和6年8月7日（水）午前11時から三井住友銀行と、令和6年10月28日（月）午後3時から名古屋銀行と両日ともに大学本館役員会議室1において協定締結式が挙行されました。

遺贈とは、希望者が遺言書を作成し、遺産を特定の個人や団体に贈与することです。遺贈を通じて、遺贈希望者の方の想いを未来に繋いでいくことができます。

本学はこの協定締結により、遺贈の申し出があった場合、三井住友銀行及び名古屋銀行の遺言信託業務照会窓口を紹介することが可能となりました。遺贈希望者との同意があれば、各銀行のサポートを受けて、遺言書作成の相談や手続き等を行うことができます。

協定締結式には、祖父江元 理事長及び三井住友銀行プライベート・アドバイザー本部の春本拓麻本部長が、名古屋銀行からは吉富文秀常務取締役が



左から春本本部長、祖父江理事長



左から祖父江理事長、吉富常務取締役

出席し、遺贈の近況について懇談された後、記念撮影が行われました。

令和7年度採用事務職員内定式挙行

令和6年10月1日（火）午後3時から大学本館701会議室において、令和7年度採用事務職員内定式が挙行されました。

式では、内定者2名に内定証書が授与された後、島田孝一法人本部長から「これまで本学は新病院建設やドクターヘリ格納庫の整備、駐車場の拡張、メディカルセンターの設置など、拡大を続けてきましたが、成長期があれば充実期があるため、今年度以降については規模ではなく内容の濃さを求める必要があります。職員についても同様に、数ではなく能力を伸ばしていきたいと考えます。今後、先進医療研究棟構想やリハビリテーション医療の充実などの未来に向けたプランがあり、それらが軌道に乗るかどうかは、事務職員の働きにかかっています。皆さ



内定者との記念撮影

んが入職された際には、自分ができることには責任を持ち全力で取り組んでください。来年の4月に、万全の状態の皆さんに再会できることを待っています。」とあいさつがあり、午後3時30分頃に式は終了しました。

アドミッションセンターの設置

本学では、中期計画（令和6年度～令和10年度）で示す「アドミッションオフィスの設置」について検討を進め、令和6年9月1日付けで大学の附属施設となる「愛知医科大学アドミッションセンター」が設置されました。また、同日付で本センターの専任教員（センター長）として仙石昌也教授（前・物理学教授(特任)）が就任されました。

アドミッションセンターは、入学者選抜及び学生募集の企画立案や、専門的立場から全学的な入学者選抜の評価等を行うことで、継続した優秀な学生の獲得に寄与することを目的としています。今後、18歳人口が更に減少していく中、優秀な学生を獲得していくための構想やマーケティング戦略を描くこと

が非常に重要であり、これらを専門的に検討する部門を大学に設置することとなりました。

入学試験及び学生募集活動の実施については、従来どおり医学部・看護学部それぞれの入学試験委員会や入試事務担当課等で行われますが、本センターでは、両学部と緊密な連携を図り、「入学者選抜及び学生募集活動に係る情報収集、分析、企画立案、提言」に関する業務を中心とし、「入学者選抜の可否に係る多面的・総合的な評価」、「入学者選抜業務の監督・助言」、「受験生や教育機関等との入試相談業務」に加えて「公正な入試の実施並びに入試ミス防止に向けた監督的役割」などの専門的な業務を担って参ります。

今枝宗一郎衆議院議員による本学視察の実施

令和6年8月20日（火）午前11時から、今枝宗一郎衆議院議員が来学し、本学及び本院の施設を見学されました。今枝先生は平成20年に名古屋大学医学部を卒業後、医師として活躍され、第2次岸田第2次改造内閣において文部科学副大臣を務められており、その関係で今回の視察が行われました。

当日は、役員会議室1において祖父江元 理事長・学長、道勇学病院長、笠井謙次医学部長、島田孝一法人本部長、羽根田雅巳事務局長との懇談が行われ、本学医学部の教育及び本院の救急医療への取り組みについて活発な意見交換が行われました。

次に、救急診療部の加納秀記教授による本院救急関係施設（Hybrid ER、高度救命救急センター、TACU、医療コンテナCoMU[®]、ドクターヘリ）の見学が行われました。

続いて、医学教育関係施設としてシミュレーショ



役員との記念撮影
（前列左から、今枝先生と祖父江理事長・学長）

ンセンターの見学を行い、胸部エコー検査のシミュレーション模型を操作することで、本学の充実した医学教育設備を体感いただきました。また、学生の自習施設である医心館では医学部6学年次生がセミナー室で学習する姿を見学されました。

本学では文部科学省との協力の元、質の高い教育の提供を継続できるよう、より一層努めて参ります。

大学院看護学研究科博士後期課程の設置認可

大学院看護学研究科の博士後期課程設置申請について、令和6年8月29日（木）付けで文部科学省からの設置認可を受けました。

博士後期課程は、専門的かつ高度な研究遂行能力を有する自立した研究者及び高度な看護実践能力と高い研究・管理能力を有する臨床現場における変革

者の養成を目的としており、看護学の学術的発展に貢献できる研究者・教育者となる人材を養成する「PhD (Doctor of Philosophy in Nursing) コース」と、高度な看護の実践者・管理者となる人材を養成する「DNP (Doctor of Nursing Practice) コース」を設置し、令和7年4月に開設を予定しています。

令和6年度愛知医科大学公開講座終了

令和6年9月14日（土）、21日（土）及び28日（土）の計3回にわたり開催された令和6年度愛知医科大学公開講座が終了しました。

本年度の公開講座は、総合テーマを「楽しく学べる健康講座」として開催し、開催期間中には、近隣住民の方を始め、3日間で延べ331名の方々にご参加いただきました。

なお、当日の講演内容をご視聴いただけるように大学ホームページに動画を公開致しましたので、是非ご覧ください。

これからも本学では、地域の方々の健康に役立つ



公開講座の様子

公開講座を企画・運営していきますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

厚生労働省令和6年度老人保健健康増進等事業に採択

本学の災害医療研究センターが応募した、「広域的長期浸水（湛水）・液状化被害による長期孤立が予測される海拔ゼロメートル地帯における災害時福祉医療連携ネットワークモデルの作成を目指した調査研究事業」が、厚生労働省の令和6年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）の国庫補助協議（追加公募）に採択されました。本事業は3年連続の採択となっており、災害医療研究センターの活発な取り組みが評価されています。

本事業では、令和6年1月1日に発生した能登半

島地震での支援経験から、大規模災害時に長期広域孤立が予測されている海拔ゼロメートル地帯をモデル地域とし、市町村、高齢者介護施設等が、平時からの施設機能の把握及び共有、それぞれの役割分担を明確化するとともに、公助・共助機関が一体となった災害時福祉医療連携ネットワークモデルを構築し、全国普及を図ることを目的としています。

本事業の調査研究を通じて、本学はこれからも地域医療を支える大学として社会貢献に努めて参ります。

【高大連携】愛知医科大学病院体験学習開催

令和6年8月8日（木）に、愛知県立長久手高等学校との高大連携事業「医療看護探究C」の授業の一環として「愛知医科大学病院体験学習」が開催され、長久手高等学校「医療看護探究コース」の2年生16名及び3年生20名の生徒が参加しました。

当日は看護ユニフォームを着用し、3年生は中央棟の三つの病棟に分かれ、2年生は副院長の井上里恵看護部長から「愛知医科大学病院の役割と看護のしごと」についてのお話を聞いた後、中央棟の四つの病棟に分かれ、それぞれ実際の臨床現場を体験しました。

約1時間の病院体験を終えた後、看護学部棟講義室へ移動し、高校生たちが実際の医療現場を見学して感じたことを共有し、振り返りを行いました。



臨床現場体験後の振り返りをする高校生

参加した高校生は、臨床現場の雰囲気や様々な患者さんと看護師との距離感や接し方、看護する様子などを体感することによって、学習目的である「医療・看護の役割や大切にしていること」の理解を深めることができました。

【高大連携】認知症サポーター養成講座開催

令和6年9月18日（水）午後1時30分から7号館（医心館）多目的ホールにおいて、愛知県立長久手高等学校との高大連携事業「医療看護探究C」の授業の一環として、「認知症サポーター養成講座」が開催され、長久手高等学校「医療看護探究コース」の2年生17名の生徒が参加しました。

当日は、長久手市社会福祉協議会地域包括支援センターから4名の方をお招きし、認知症についての講義を行っていただきました。認知症の方への対応事例や認知症当事者の方からのメッセージ動画視聴のほか、認知症に対するイメージや、認知症の方との接し方についてグループで考え、発表しました。

約1時間半の講座を終え、認知症サポーターの証であるオレンジカードを受け取った高校生から



各グループに分かれ話し合う高校生

は「講座を受ける前と後で、認知症に対する考え方が変わりました。」「認知症の方と接する機会がある際は、相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応したい。」などの感想があり、認知症について理解を深めることができました。

令和6年度大学コンソーシアムせとカレッジ講座開催

令和6年8月8日（木）午後2時から瀬戸市のパルティセとにおいて、本学看護学部看護実践研究センター地域連携・支援部門の森莉那准教授を講師として、大学コンソーシアムせとカレッジ講座「あなたの食生活は『健康』？～日頃の食生活を振り返ることから始めよう～」が開催されました。

心身ともに健康に生きていくためには、1日3度の食事を楽しみながら、必要な栄養素を過不足なく摂ることが必要です。講座では、毎日の食事や運動などの生活習慣を振り返り、生活習慣病を予防するためのバランスの良い食事の摂り方や運動について説明が行われました。

今回は市民44名が参加され、参加者は実際にフードモデルを目で見て確かめることができたほか、自



講座に参加する受講生

分の手を計りとした食事量など内容が分かりやすく、終始和やかな雰囲気です。感嘆や驚き、時に笑い声が上がリ、メモを取る方や質問する方も多い中、盛況のうちに幕を閉じました。

安全保障輸出管理に関する講演会開催

令和6年8月29日（木）午後5時から大学本館203講義室において、安全保障輸出管理に関する講演会がZoom併用にて開催されました。

安全保障輸出管理（輸出管理）は、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、我が国及び国際社会の安全性を脅かす国家などに渡ることを防ぐため、先進国を中心とした国際的な枠組みを作り、国際社会と協調して輸出等の管理を行うものですが、我が国においても法律に基づき実施され、大学等研究機関においてもこれを適正に行うことが求められており、本学においても推進する必要があります。

このことから、輸出管理の基礎的知識を涵養していくため、本学から経済産業省へ依頼し、輸出管理

アドバイザーを務めていただいている名古屋大学特任教授の宮林毅先生をお招きして、本内容に関する講演会が開催されました。

講演会では、宮林先生から安全保障輸出管理の基礎的知識を始め、大学として取り組むことが必要な事項等が詳細に解説されました。

現在、宮林先生のアドバイスを受けながら、本学の研究成果等の輸出管理を導入していく準備を行っておりますので、ご協力をお願いします。

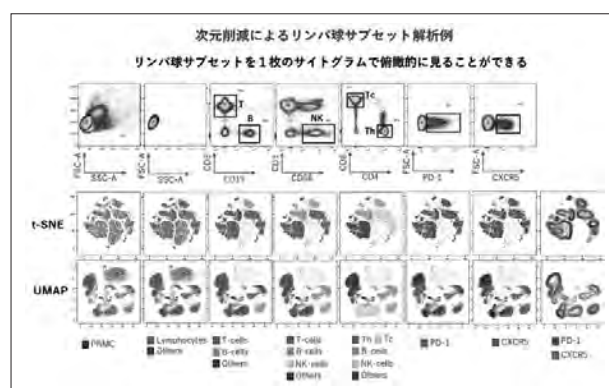
安全保障輸出管理については経済産業省のホームページ（<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/>）からご確認いただけます。

研究創出支援センター第2回「戦略的研究推進セミナー」開催

令和6年10月10日（木）午後5時から、大学本館301講義室において、研究創出支援センター主催による第2回「戦略的研究推進セミナー」が、同センターの鈴木進教授（特任）を講師としてZoom併用にて開催されました。

第2回セミナーのテーマは「フローサイトメトリ次元削減解析」とし、初めに、次元削減解析の基本的手法等の説明があり、フローサイトメトリにおける解析アルゴリズムの種類と特徴の解説、tSNE、UMAPを用いた自験例及び最近の論文からの解析例が紹介されました。セミナーには主に基礎医学系の研究者が参加され、基礎研究に大いに役立つ内容となりました。

また、研究創出支援センターで行っている研究支援の体制として、基礎研究、臨床研究へ幅広く研究



次元削減によるリンパ球サブセット解析例

支援を行っていることが紹介され、多くの学内研究者に利用を促すよう呼びかけられました。

今後も研究創出支援センターでは、研究活性化に資する様々なセミナー等を開催することを予定していますので、ぜひご参加ください。

令和6年度SD「産業医講演会」実施

令和6年10月7日（月）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、「『行動』から考える職場環境 ～『頑張る』、『気をつける』からの脱却～」をテーマとした産業医講演会が開催されました。【写真】

講演会では、本学の産業医である衛生学講座の鈴木孝太教授から、テキスト『行動科学入門』誕生の経緯や知識創造理論・暗黙知・形式知についての説明がありました。また、様々な理論や行動を意識した教育及び学生の事例からの気づきについても解説がありました。更に、働かない「働きアリ」というユニークな視点や、ダイバーシティを意識したコミュニケーションの重要性も取り上げ、関連書籍の紹介などを交えながら職場環境を「行動」から考察していきました。

講演会後のアンケートでは、「行動科学について興味があったので聴講できて良い機会となりました」



た。」「鈴木先生がどのように行動されているのかについて聞くことができ、大変興味深かったです。」などの好意的な意見が集まりました。

来年度以降も産業医とテーマの相談をしながら、この講演会を開催する予定です。

※ SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み。

教授就任インタビュー



アドミッションセンター・教授

せんごく まさや
仙石 昌也

— 教授就任に当たっての抱負を 聞かせてください。—

平成5年に本学に着任して以来、医学部の物理学教員として、主に初年次教育や教育関連の研究に携わってきました。この度、アドミッションセンターの専任教員として新たな職務に就くこととなりました。これまで培ってきた知識や経験を活かして本学の更なる発展に貢献できるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在、多くの私立大学は学生の確保に苦勞しており、日本私立学校振興・共済事業団の調査によれば、令和6年度には定員割れしている私立大学の割合が59.2%に達しています。このような厳しい状況を受けて、多くの大学で入試業務に関わるアドミッションセンターの開設及び専任教職員の配置が進んでいます。

本学においても、令和6年9月1日付でアドミッションセンターが設置されました。今後は、新しい組織としての体制整備と大学の将来を担う学生の安定的な確保が重要な課題となります。まずはセンターのメンバーと連携して業務内容の確認や問題点の洗い出しを進めていく予定です。現状では、入学者選抜に携わる多くの方々の努力によって両学部とも定員を確保できていますが、将来に備えて広く情報収集や分析を行い、それらの結果を今後の選抜方法の改善や新しい施策の企画・立案、広報活動などに活かしていきたいと考えています。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

高校時代は応用研究よりも基礎的な研究を行いたいと考えて理学部に入りましたが、大学入学時点で

は具体的なイメージはありませんでした。卒業研究の際に超微粒子の研究室に入り、気相成長における超微粒子の生成に関する研究に取り組みました。この研究室に入った理由は、研究内容に興味を持ったことはもちろんですが、研究室訪問の際に自由な雰囲気の中で研究を楽しんでいるように見えたことも大きかったと思います。

本学に着任した後、しばらくしてから教育に関する研究を始めました。これは、当時在籍していた物理学の先生方が熱心に教育に取り組んでおり、物理教育の研究で科研費を取得した際に研究分担者として加わったことが大きなきっかけとなりました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

私の学生時代に電子メールやインターネットが登場し、その利便性に強い衝撃を受けました。それ以降の発展をリアルタイムで経験できたことは、大変幸運だったと感じています。

現在、生成AIを始めとするAI技術は急速に進化しており、時代は大きな転換期を迎えています。これからの医療現場では、これまでと異なる能力が求められることも増えるでしょう。その際に重要となるのは、基礎的な知識をベースとした深く考える力だと思います。

皆さんは幸運にも、AI技術が劇的に進化する時代に大学生として学びの場をもつことができます。AIを単に答えを教えてくれる便利なツールとしてのみ利用するのではなく、自らの思考の幅を広げ、能力を高めるためのツールとして活用し、新たな時代に対応できる力を身につけてください。



2005年日本国際博覧会 愛・地球博（万博）にて

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」認定

本学が令和5年度から実施している「愛知医科大学医学部データサイエンス教育プログラム」が、令和6年8月27日（火）付けで、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。認定の有効期限は、令和11年3月31日までとなります。

内閣府の「AI戦略2019」では、数理・データサイエンス・AIは、デジタル時代の「読み・書き・そろばん」であり、大学生についてはAIリテラシー教育を50万人に展開すると謳われていました。それを実現するため、令和3年度に文部科学省において「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」が制定されました。また、同年度からは、私立大学等経常費補助にデータサイエンス教育に関する項目も追加され、データサイエンス教育の重要性が増してきました。

本学では、以前から両学部ともに統計学と情報学



の科目が開講されていました。それらのカリキュラムを整備し、今後、ますますITが発展する時代の医療を実践できる数理・データサイエンス・AIの基礎を身に付けることを目的として「愛知医科大学医学部データサイエンス教育プログラム」を開始しました。今後も生成AIへの対応など常に改良を重ね、より良い教育の実施を目指していきます。



愛知医科大学大学院学生への修学助成金（愛橋修学助成金）給付に関する協定締結

令和6年9月20日（金）付けにて、学校法人愛知医科大学と一般社団法人愛知医科大学同窓会愛橋会による「愛知医科大学大学院学生への修学助成金（愛橋修学助成金）給付に関する協定」が締結されました。

これまでに大学院医学研究科では、男女に関わらず介護、出産、育児などライフイベントがあっても大学院を退学することなく研究再開の可能性を維持するために、休学許可範囲の拡充や学納金減免制度の整備を行ってきました。しかしながら、臨床医学系の女性大学院学生が抱える問題は多く、特に、出産や育児時に経済的な問題が生じることで修学継続を断念する場合があることから、就業・修学支援が求められてきました。

本協定の締結により、出産・育児を理由に休学す

る臨床医学系の女性大学院学生に対し、学資に係る経済的負担をより軽減することで教育研究活動への復帰支援策の一環となる修学支援制度を整備することができました。

愛橋修学助成金を通じ、将来的な女性研究者の活躍と女性教員の増加に寄与することが期待されます。

【助成内容】

対 象	・ 出産、育児を理由に休学する臨床医学系の女性大学院学生 ・ 毎年度、原則2名まで ※標準修業年限（4年）を超える者は対象外
助成額	・ 10万円（前期：5万円、後期：5万円）／人

令和6年度オープンキャンパス開催

令和6年度オープンキャンパスは、令和6年8月3日（土）医学部・看護学部合同、4日（日）医学部単独、10日（土）看護学部単独で、いずれも来場型にて開催されました。

昨年度に引き続き、入場制限を設けることなく開催し、両日合わせて医学部は462組1,024名、看護学部は655組1,256名と大変多くの参加者にお越しいただき、活気のあるオープンキャンパスとなりました。

また、昨年度から「ここがわたしの、夢の入り口」というコンセプトを設定し、大学本館を中心とした装飾を一新しました。これは正門という大学を象徴するモチーフから発想し、将来の可能性を拓く前向きなイメージとオープンキャンパスのデザインとを連動させて表現したものとなっております。

このコンセプトのとおり、来場者からは「キャンパス内の施設見学、模擬講義、各種実習を体験できるイベントや教員・在学生との触れ合いを通して、大学の明るく活気のある雰囲気を直接体感することができ、オープンキャンパスに来なければ知ることのできない様々な体験ができた。」と多くの方々から好評をいただいております。

なお、「オープンキャンパス特設サイト」では、大学・学部紹介動画や施設紹介、ドクターヘリ紹介など遠方等で当日来場することができない受験生に対しても本学の魅力を発信しています。



コンセプトデザイン

◆医学部

＜来場型＞

- ☆学部長あいさつ・入試説明
- ☆教職員による個別相談会
- ☆学生との交流コーナー ☆国際交流コーナー
- ☆模擬授業～医学部の講義を体感してみよう～
- ☆脳の標本観察 ☆実習体験

＜Web型＞

- ☆愛知医科大学医学部入試過去問解説講座

◆看護学部

- ☆学部長あいさつ・学部紹介
- ☆在学生によるキャンパスツアー
- ☆体験演習 ☆大学院の講義・演習
- ☆フライトナースによる講演会
- ☆卒業生との交流（同窓会）
- ☆国際交流 ☆在学生との個別相談会
- ☆教職員との個別相談会

◆両学部共通

- ☆学食体験 ☆ドクターヘリ見学



多くの来場者で賑わったドクターヘリ見学



ACSISによるシミュレーターを使用した医学部実習体験



医学部模擬講義
～医学部の講義を体感してみよう～

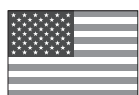


看護学部体験演習

【参加者の皆さんからの感想】

- ・入試について細かい説明があり大変分かりやすかったです。生徒と先生方の距離が近く、面倒見が良い大学だと好印象を受けました。また、在学生の方が体験談等を話してくださり、とても参考になりました。
- ・学生さんとの交流コーナーで実際にお話しさせていただき、実際の校舎の雰囲気や周囲の環境、学生生活などが具体的にイメージできました。
- ・大学全体が暖かい雰囲気で、気軽に質問することができました。体験演習では、実際に医療機器に触れ、入学後のイメージをより想像することができました。
- ・キャンパスツアーで学内を周り、充実した設備や勉強に集中できる環境が整っていると感じました。また、ドクターヘリを間近で見学することができ、普段できない貴重な体験をさせていただきました。

国際交流



アメリカ合衆国南イリノイ大学医学部教員来学 ～更なる相互交流の発展を目指して～

本学医学部では、平成17年3月から南イリノイ大学 (Southern Illinois University School of Medicine: SIU) との学術国際交流を行っており、教員の招へいや、相互に学生の派遣・受け入れを行っています。

例年本学からは、5学年次生を対象とした臨床実習に参加するコースと、3・4学年次生を対象としたSIU 2年生カリキュラムを受講するコースの二つのコースへ学生を派遣しています。令和6年10月29日(火)、30日(水)の2日間に亘り、この学生の受け入れに多大なご協力をいただいているSIUのAndrea Braundmeier-Fleming先生(医学微生物学・免疫学・細胞生物学講座、産婦人科学講座准教授)及びNicholas Weshinsky先生(医学教育講座教育学助教)が来学され、本学の視察や学生・教員との交流が行われました。

今回の来学では、祖父江元 理事長・学長、笠井謙次医学部長への表敬訪問や、来学された先生方による「Immunology of Reproduction」及び「Transforming Students into Physicians: Educational Philosophy, Theory, and Practice」についての講演が行われました。SIUでは、先駆的な教育カリキュラムの開発と充実した医学教育システムの整備を重点的に行っており、この講演では、これらに関する知識や理解を深める良い機会となりました。



表敬訪問時の記念撮影

また、SIUへ派遣予定である医学部3・4学年次生に対して、SIUで行われているPBL(問題立脚型学習)や医療英語の指導をしていただきました。指導後には、派遣学生との懇談会も行われ、学生にとっては、指導を受けた際の緊張感から解放され、積極的に先生方とコミュニケーションを図り、親睦を深めることができました。派遣に向けての新たな学修課題を形成できる良い機会となり、モチベーション向上へと繋がったようです。

このように、例年のSIU教員の来学は、両大学の相互交流の更なる発展に大いに役立っています。医学部では今後も引き続き学術国際交流協定校等の開拓に努め、更に多くの学生に海外留学へのチャンスを与えると同時に、海外大学の学生の受け入れを通して、学生が国際的な視野を広げる一助になるよう一層努力して参ります。

令和7年度大学院医学研究科入学試験及び 第81回論文博士外国語試験実施

令和6年10月4日(金)、大学本館711特別講義室において、大学院医学研究科入学試験第1次募集及び第81回論文博士外国語試験が行われました。合格者数は、大学院医学研究科入学試験が12名、論文博士外国語試験が5名となりました。

大学院医学研究科では、入学定員に満たないことから、第2次募集を予定しています。これまで社会

人入学制度や学納金減免制度の拡充などを行い、大学院教育を受けやすい環境を整えてきましたので、研究意欲の高い方が多数応募されることを期待しています。

なお、大学院医学研究科入学試験第2次募集及び第82回論文博士外国語試験は、令和7年1月31日(金)に実施予定です。

令和7年度大学院看護学研究科入学試験実施

令和6年9月4日（水）に令和7年度大学院看護学研究科入学試験が行われました。合格者は、修士論文コースが6名、高度実践看護師（診療看護師〔NP〕）コースが8名となりました。

本研究科では、これまで医療等の現場で活躍されている方々が、退職したり休職したりすることなく

学べるよう、平日の夜間や土曜日などにも講義、研究指導を行っています。更に、勤務や育児などの事情により標準修業年限での履修が困難な学生を対象とした「長期履修制度」を導入し、社会人がより学びやすい教育環境を整えています。（高度実践看護師（診療看護師〔NP〕）コースを除く。）

令和5年度 ベストティーチャー賞表彰

令和5年度のベストティーチャー賞が決定しましたのでご紹介します。

同賞は、平成29年度から導入された制度で、学生が行う各科目の授業評価アンケート結果により、教育方法や教育内容等が高く評価された教員を表彰するものです。

今回は、学部（医学部・看護学部）及び大学院（医学研究科・看護学研究科）から合わせて11名の教員がベストティーチャーに選出されました。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育意欲の向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャー賞表彰者は、次のとおりです。

学 部

○医学部

- ・内藤 宗和（解剖学講座・教授）
- ・山口奈緒子（薬理学講座・准教授）
- ・尾川 貴洋（リハビリテーション医学講座・教授）
- ・早稲田勝久（医学教育センター・教授）
- ・後藤 礼司（内科学講座(循環器内科)・講師）
- ・菅 太一（耳鼻咽喉科・頭頸部外科・助教
(医員助教))

○看護学部

- ・荻野 朋子（老年看護学領域・准教授）
- ・佐々木裕子（地域・在宅看護学領域・准教授）

大学院

○医学研究科

- ・森 直治（緩和ケアセンター・教授）

○看護学研究科

- ・谷口 千枝（慢性看護学領域・教授）
- ・心光世津子（精神看護学領域・教授）



医学部及び大学院医学研究科



看護学部及び大学院看護学研究科

2024年度医学部白衣式挙行

令和6年10月12日（土）午後2時から大学本館たちばなホールにおいて、2024年度医学部白衣式が挙行されました。

白衣式では、共用試験（CBT、臨床実習前OSCE）に合格し、臨床実習への参加が認められた医学部4学年次生に対して「臨床実習生（医学）」（英語表記：Clinical Clerkship Student）の称号を授与されました。学生は新しい実習衣を身に付け白衣式に臨みました。

初めに、笠井謙次医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり、代表者へClinical Clerkship Student証書が授与されました。続いて、鈴木耕次郎教務部長始め、6名の臨床医学系教授から学生一人ひとりにClinical Clerkship Student証書とワッペンが授与されました。

次に、祖父江元 学長、道勇学病院長、井上里恵看護部長から祝辞があり、愛知医科大学同窓会愛橋会の福澤嘉孝理事長、昨年度に本学を卒業し研修医1年目の本村理子医師からも激励の言葉がありました。



学生宣誓文を読み上げる林さん

最後に、4学年次代表の林美咲さんが学生宣誓文を読み上げました。この宣誓文は、これから臨床実習に臨むに当たっての心構えなどを学生全員で話し合って作成したものであり、自分たちで考え、言葉にすることで、自らの臨床実習への意識付けや行動規範とするものです。

白衣式終了後は、たちばなホール壇上において記念撮影をし、学生それぞれがこれから始まる臨床実習に向けて、決意を新たに次のステップを踏み出しました。

医学部学生表彰

令和6年10月29日（火）午後4時から大学本館4階副学長室において、他の模範となる活躍をした医学部学生の表彰が行われ、6学年次生の藤田悠太郎さん及び4学年次生の金沢亜耶さんに対し、祖父江元 学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

藤田さんは、令和6年4月26日（金）・27日（土）に開催された日本心血管インターベンション治療学会第50回東海北陸地方会の学生発表において「優秀発表賞（Student Award）」を受賞しました。

また、金沢さんは、令和6年6月7日（金）から9日（日）まで開催された日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の学生ポスターセッションにおいて



表彰された藤田さん（左から2番目）と金沢さん（右から2番目）

「最優秀賞」を受賞しました。

今回のように表彰される学生が今後も続くことを期待します。

令和6年度臨床実習前OSCE実施

令和6年9月21日（土）及び29日（日）に医学部4学年次生を対象とした医学生共用試験臨床実習前OSCEが実施されました。本来は令和6年8月31日（土）及び9月1日（日）に実施される予定でしたが、台風10号の影響で延期となり、約1か月遅れでの実施となりました。本年度は「医療面接」を21日に、「全身の状態とバイタルサインの測定」、「頭頸部診察」、「胸部診察」、「腹部診察」、「神経診察」、「基本的臨床手技」、「救急」を29日に実施し、全部で八つの課題を終えました。日程が変更になったため、再度評価者の調整をする必要がありましたが、皆さま

にご協力いただき、無事に終えることができました。

医学生共用試験臨床実習前OSCEは、令和5年度から公的化試験となり、合否判定基準などが全国統一基準で実施されています。この試験に合格することが臨床実習に進むに当たり必要になるだけでなく、医師国家試験を受験する際の要件にもなっています。

今後も一部の教員の負担にならないよう、新たな認定評価者の養成が急務となります。各講座におかれましては引き続きご協力の程宜しくお願い致します。

第89回医学教育セミナーとワークショップin愛知医科大学開催

令和6年10月26日（土）、本学にて教育ワークショップ「第89回医学教育セミナーとワークショップin愛知医科大学」が開催されました。本ワークショップは、医学教育の共同利用拠点として認可されている岐阜大学の医学教育開発研究センター（MEDC）が主催して行っているもので、年に数回開催されます。今回、岐阜大学教育センターの西城卓也教授からお声掛けいただき、本学で共催することとなりました。

実施するに当たり、本学から提案したテーマ四つを含む計六つのワークショップが実施されました。当日は、全国から約100名の医療関係者が参加し、医師のみならず、看護師、薬剤師、臨床工学士など多くの職種の方にご出席いただきました。学内からも、看護学部、看護部、医師事務など様々な職種の教職員が参加し、また、ワークショップの企画者・ファシリテーターとして多くの教職員にご協力いただき、活発な議論が行われました。

ランチョンセミナーでは、スタンフォード大学の池野文昭先生をお招きして、「医学部におけるアントレプレナーシップ教育」としてご講演いただきました。シリコンバレーでは、起業を通して人材育成が活発に行われている一方、わが国では、失敗を恐れるなどの文化の影響からか、このような人材育成が遅れているということでした。また、組織（教育機関）が教育の重要性を認識して人材育成を大切にする文化を示すことこそ、組織が生き残るために必



池野先生（中央）及び西城教授（右）



企画者・ファシリテーターとの記念撮影

要であるとお話いただきました。教育に携わる関係者には非常に勇気をもらい、時代のニーズに対応できる人を育てることの大切さを再認識し、明日から頑張ろうという気持ちになる講演でした。

今回、ワークショップを開催するに当たり、MEDCのスタッフ始め、多くの教職員の皆さんに協力をいただきました。この場を借りて御礼を申し上げます。

令和6年度第5回医学部FD開催

医学部第5回FD（ファカルティ・ディベロップメント）が、令和6年9月26日（木）に「令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラム（コアカリ）」をテーマとして開催されました。【写真】演者に名古屋大学医学部附属病院卒後臨床研修・キャリア形成支援センターの近藤猛先生（総合診療科）をお招きしてご講演いただきました。

令和4年度改訂版コアカリのキャッチフレーズは、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」です。

講演の前半では、令和4年度改訂版コアカリの新たなコンセプトをご紹介いただきました。具体的には、これまでの基礎医学、臨床医学、臨床実習という課程にフォーカスしていたコアカリから、「10の資質・能力」という結果にフォーカスしたコアカリに改訂したことなどの説明がありました。「10の資質・能力」の中で、新たに「総合的に患者・生活者をみる姿勢」、「情報・科学技術を活かす能力」の資質・能力が加わったこと、そのほか、科目横断的な



科目が増加していること、診療参加型臨床実習の更なる促進が必要であることなど、改訂版コアカリの特徴も分かりやすくご説明いただきました。

講演後半では、コアカリナビ (<https://core-curriculum.jp/>) を用いて、科目ごとに履修するコアカリを入力する演習もあり、変わりゆく社会に対応した医学教育の重要性を再認識したFDとなりました。

医学部「基礎医学セミナー」ポスター発表会開催

令和6年8月30日（金）に大学本館たちばなホールホワイエにおいて、医学部3学年次生の開講科目「基礎医学セミナー」の一環として、ポスター発表会が開催されました。

今年度の「基礎医学セミナー」では、数年間にわたるコロナ禍が明けたこともあり、学生は事前の希望調査で割り当てられた18のグループに分かれて各々の講座・研究室を訪問しました。各グループは、様々な分野から特定の課題を選択し、9日間の調査・研究を通じて研究志向の涵養を図ることを目的として、「基礎医学セミナー」の研究成果をポスターにまとめました。

ポスター発表会当日は、他グループの学生や先生方からの質疑応答等、活発な意見交換が行われました。その後、学生間で相互評価を行い、大学本館202講義室にて科目責任者の細川好孝教授から全体



ポスターセッションの様子

講評と優秀グループに表彰状の授与がありました。

10日間のセミナー活動により、本セミナーの目標である医学知識と科学的探究心を培う有意義な機会となりました。ご協力いただきました各講座・研究室の方々に深く感謝致します。

介助犬総合訓練センターでの医学部選択講座実施

本学では選択講座を1学年次後学期から4学年次前学期まで開講しています。選択講座では、モデル・コア・カリキュラムの内容にとらわれず、教員がユニークなテーマで講義・演習を行うことが可能です。学生は、半期に2講座（1講座3コマ）ずつ選択し、プログラムを受講しています。

医学教育センターでは、「介助犬をもっと知ろう」をテーマに、選択講座の受講生を募集し、学生42名が令和6年7月31日（水）・8月1日（木）の2回に分かれて参加しました。この選択講座では、本学卒業生で日本介助犬協会理事長である高柳友子先生のご協力の下、介助犬総合訓練センターであるシンシアの丘を実際に訪問して、演習が行われました。高柳先生によると、医学部の学生が授業として同施設を訪問するのは初めてとのことでした。

実習は、介助犬の育成現場である施設の見学、障がいを知るための車いす体験、高柳先生から介助犬概要の講演、介助犬デモンストレーション、介助犬使用者さんからの話、障がいをもテーマとしたグループワークと盛りだくさんの内容で、学生たちは3時間かけて介助犬や肢体不自由者について学びました。

介助犬使用者さんとの質疑応答が活発に行われ、その中で使用者さんから、「不自由だけど不幸では



集合写真

ない。」「医師にとって患者は、大勢の中の一人かもしれないが、患者にとって主治医は一人しかいない。」という言葉があり、学生たちに強く印象に残りました。

また、高柳先生からは、「障がい者を『患者さん』ではなく、『生活をしている普通の人』として接することができる視点を身に付けて欲しい。」とのメッセージをいただきました。

必須科目の多い医学部では、気が付くとスケジュールに追われていることが多々あります。今回の選択講座では、普段、大学では経験できないことを体験し、医師として必要な資質に少し気付くことができたのではないかと思います。

食中毒予防講習会開催

令和6年10月24日（木）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、食中毒予防講習会が開催されました。

この講習会は、11月2日（土）、3日（日・祝）に開催される医大祭において飲食物の提供を行う模擬店を出店することから、出店に関わる学生を対象に食品の衛生指導等を行い、食中毒の発生を未然に防ぐことを目的として開催しています。

瀬戸保健所環境・食品安全課食品指導グループの職員を講師にお招きし、食中毒の発生状況及び主な食中毒の種類とその予防方法についての説明・事例紹介などがあり、模擬店出店時の衛生管理のポイントについてスライドを用いてご指導いただきました。

参加した学生からは、「食中毒は自分だけではなく、周りの方も含めて注意しないといけないことが分かった。一人ひとりの注意が重要だと思った。」



「食中毒は自分だけの問題ではないと思うので、人に迷惑をかけないように細心の注意を払って模擬店をできればと思う。」「食中毒が起きないように手洗いなどの衛生管理を徹底しようと思う。」といった感想がありました。

医学部学生の愛知県へき地・地域医療研究会参加

地域総合診療医学寄附講座・教授（特任） 宮田 靖志

毎年、夏休み期間に愛知県庁と愛知県へき地医療支援機構主催によるへき地・地域医療研修会が、県内の地域医療機関において開催されています。コロナ禍に中止されていた本研修会は、昨年度に1日のみの研修会として再開されましたが、今年度は令和6年8月17日（土）、18日（日）の2日間にわたり、本来の姿である1泊2日で開催されました。

今回の研修会は、北設楽郡の豊根村、設楽町、東栄町からの協力を得て、東栄グリーンハウスで実施され、地域医療に関心のある学生や医療者が一同に会し、グループワークや懇親会を通じて交流を深めました。67名の関係者が集う中、本学からは19名の医学部学生が参加しました。自治医科大学の学生13名や地域医療機関から参加した多職種の医療専門職者と席をともにし、様々な企画・意見交換、情報交換を通じて和気あいあいとした雰囲気の中、多くの学びを得ることができました。

豊根村診療所、つぐ診療所、東栄診療所の見学ツアーでは、各施設がへき地にあって住民に最善の医療を提供すべく、充実した機能を維持していることについて理解するとともに、そのことに対する行政・医療従事者の尽力に驚きが隠せませんでした。その後の講演会とワークショップでは、今後、人口減少が続くこの地区での医療をどうしていくのかというお話をもとにし、グループワークが行われました。学生からの新鮮な意見は、ベテランの地域医療従事者にとって、今後の医療提供体制作りに関し、思わぬヒントとなったようでした。

夕方からは、メインイベントとも言えるBBQ懇親会が行われ、本学の学生たちは、日頃なかなか接することのない他大学の学生や地域医療従事者とざっくばらんな雰囲気の中で貴重な意見交換を行いました。また、懇親会終了後には、綺麗な星空の下で花火に興じ、交流が更に深まりました。

2日目は、消防士の方による地域の救急体制につ



研修会に参加した本学の学生



白熱したグループワークの様子

いての講演と実際の救急処置によるデモンストレーションが行われました。真に迫るプロフェッショナルな対応に圧倒されつつ、プレホスピタルでの消防士・救命救急士と医療者との連携について再確認することができました。

今のところ、へき地医療や地域医療の現場を見てみようと思う学生は少数です。将来このような地区に赴任することは稀かもしれませんが、地域の実情を知ったうえで都市部に勤務することは、救急患者を地域医療機関から受け入れる際に非常に役立つでしょう。2日間の充実した本研修会では、例えば、ドクターヘリによる大学病院と地域医療機関との連携について改めて学ぶことができ、その重要性和課題について新たな知識を得ることができました。

来年度の研修会は、佐久島での開催が予定されています。楽しい懇親会も待っています。へき地医療や地域医療の現場を知っていただくため、より多くの医学生と看護学生の皆さんが今後の研修会に参加いただくことを期待しています。

実習指導に関する看護学部FD実施

令和6年8月26日（月）午後1時から、看護学部棟N102・N103実習室において、看護学部教員及び看護部臨地実習指導担当者総勢71名による、実習指導に関するファカルティ・ディベロップメント（FD）が実施されました。今回は「根拠に基づいた看護を実践する能力を育成する実習指導について」をテーマとし、学生が体験する様々な臨床現場での事象を、理論及びエビデンスと関連付けて理解し、看護を提供できるように、どのような実習指導を行っているかについてのグループワークが行われました。対面形式かつ、実習病棟の指導者と担当領域の教員を可

能な限りマッチングした座席配置により、一層活発な意見交換、関係づくりが実現しました。

ディスカッションでは「“なぜ”という発問をする。」「学生の思考を確認する。」「リフレクションを通して実践の意味付けを行う。」など指導上の工夫とともに、悩みや課題に関する意見も共有することができました。

今後も、教員と臨地実習指導担当者間でのFDを継続的に実施し、より良い連携・協働した指導体制の構築に繋げて参ります。

令和6年度看護学部リーダーシップ研修開催

令和6年8月28日（水）午前10時から、看護学部棟N201講義室において、令和6年度看護学部リーダーシップ研修が開催されました。

今年度は、キャリアコンサルタントとして教育領域や企業等の就労支援とともに、中学生から70代までの幅広い層の方へのキャリアカウンセリングの経験を持つ、人財支援ジョイオーラの小島喜美代氏を講師としてお招きし、「人生100年時代のワーク＆ライフキャリアをデザインしよう」と題してご講演いただきました。

本研修は、看護学部の教職員一人ひとりが、自身のキャリアの歩みを振り返ることで、それぞれの持つ特性をより発揮できるようになることを目的として開催されました。中長期的な視点で自己のキャリアビジョンを描き、より主体的に自らの役割を理解・



研修を受ける教職員

実践するための個人ワーク及びグループワークを取り入れることで大変有意義な研修となりました。

また、看護学部教職員の希望者には、自身のキャリアをより深く振り返る機会として講師との個別面談も予定されております。

看護学部同窓会ホームカミングデー開催 ～過去を振り返り、未来へつなげる1日～

令和6年9月6日（金）午後6時から、立石プラザ3階において、看護学部同窓会企画「ホームカミングデー」が開催されました。当日は令和5年度卒業生、教職員、同窓会理事が一堂に会し、懐かしい再会を喜び合いながら、親睦を深める貴重な機会となりました。

イベントは藤澤恵児同窓会長及び若杉里実看護学部長のごあいさつから始まり、交流会では食事を共にしながら、卒業生と教職員が近況を語り合いました。ミニゲームとしてオリジナルのビンゴ大会を開催し、参加者からはより一層の笑顔が溢れました。最後には、記念撮影とともに当日のイベントを振り返るスライドショーが上映され、参加者は一日を通しての思い出に浸りながら、名残惜しさを感じつつ



卒業生・教職員・同窓会理事で記念撮影

閉会を迎えました。

参加者からは、「このつながりを糧に、これからもより一層仕事を頑張りたい。」との声が多く、今回のイベントが新たな意欲を生み出すきっかけとなりました。

看護学部学術国際交流委員会 第1回「Global Nursing Cafe」開催

令和6年10月4日（金）午後4時20分から看護学部棟N306実習室において、看護学部学術国際交流委員会企画による第1回「Global Nursing Cafe」が開催されました。これは、海外での活動経験がある医療職者をゲストスピーカーとしてお招きし、看護学部生がその経験やそれまでの準備などのお話を伺い、国際的な視点での看護の可能性を広めるとともに、今後のキャリアを考えることを目的としたセミナーです。

第1回セミナーでは、臨床実践看護学の橋本茜講師から「私が看護師になってから留学した理由、お話しします！」をテーマとして、米国への海外留学を決意したきっかけや、留学中の多様な活動、様々な人々との出会いのエピソードなどをお話いただきました。Cafeスタイルで行われたセミナーには8



ゲストスピーカーの話を聞く学生たち

名の看護学部生が参加し、「海外留学に行ってみたかった。」「橋本先生の行動力や決断力に心が動かされた。」「将来の幅が広がった気がした。」などの感想が寄せられました。

看護学部学術国際交流委員会では、引き続きゲストをお招きしてセミナーを開催していく予定です。

看護学部体験講義開催

令和6年8月28日（水）午後1時30分から看護学部棟N203講義室において、看護学部体験講義が開催され、愛知県立天白高等学校から高校生2名及び教員2名が来学しました。

当日は、若杉里実看護学部長からのあいさつ、広報委員長の山中真教授による学部紹介の後、成人看護学の伊藤真規助教による「大学で看護学を学ぶこと」をテーマとした模擬講義が行われました。講義では、看護師免許を取得するための進路や、大学と専門学校の違いなどを学び、実際にパルスオキシメーターを使用して、自身や参加者同士で酸素飽和度を測定する体験も行いました。その後、ドクターヘリ見学では、説明中に出動要請が入るなど、その緊迫感に圧倒されていました。

参加された高校生からは、「設備などが充実して



体験講義を受ける高校生

いて、看護を学ぶのに適した環境が整っている。」「ドクターヘリの機体の中まで入らせてもらい、貴重な体験ができました。」などの感想が寄せられ、参加者の皆さんにとって有意義で充実した一日になったことと思われます。

看護学研究科特別シンポジウム開催

令和6年10月5日（土）午後1時から大学本館たちばなホールにおいて、大学院看護学研究科特別シンポジウム「今求められる看護専門職の役割と大学院教育」が開催され、多くの方々にご参加いただきました。

オープニングスピーカーとして、本学大学院看護学研究科の高橋照子特命教育教授に「本学大学院博士後期課程構想」についてお話しいただきました。また、シンポジストとして、本院副院長の井上里恵看護部長から「臨床のややもやを解決？組織マネジメントに活かす博士課程での学び」について、昭和大学病院小児看護専門看護師の井出由美氏から「高度実践看護師がDNPコースで学ぶ意義～臨床の質を改善し変革に挑む国産DNP第1号の実践～」について、東京北医療センター診療看護師（NP）の筑井菜々子氏から「DNPで学び臨床を変えていく



シンポジストとの記念撮影

～DNPが導くエビデンスに基づく実践の最前線～」についてご講演いただきました。

その後、シンポジスト3名によるフリーディスカッションと質疑応答が行われ、大学院教育での学びと看護職者の今後の可能性を考える有意義な機会となりました。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 令和6年度第2回「愛・ながくて夢ネット研修会」開催

令和6年8月21日（水）午後2時30分から長久手市役所庁舎3階研修室において、看護学部看護実践研究センター地域連携・支援部門の伊藤寿英助教が講師となり、令和6年度第2回「愛・ながくて夢ネット研修会」が開催されました。

地域を支える医療職、介護職の方々に、日頃のヒューマンエラー対策について考えてもらうことを目的として、「エラーを体感してうっかりミスがなくそう！～暮らしを支える在宅での安全対策～」というテーマで、認知行動学の観点からゲームをしながらヒューマンエラーの仕組みを説明していただきました。

今回は41名が参加し、参加者からは、「実際に体感できたので覚えやすかったです。ヒューマンエラーは起こりやすいものだ改めて感じました。」



研修会の様子

「よくうっかりミスをしてしまうので、今日の講義を参考に行動しようと思います。」などの感想が寄せられました。

今後も、看護実践研究センター地域連携・支援部門では、地域のニーズに即した支援活動を企画していく予定です。

看護実践研究センター キャリア支援部門 臨床看護セミナー開催

令和6年9月21日（土）午前10時から、NP部の森一直NP師長（診療看護師）及び看護部の上野沙織看護師（急性・重症患者看護専門看護師）による臨床看護セミナー『『ちょっと変？』に気付ける呼吸・循環の見方』がオンライン形式で開催され、県内外から74名の参加がありました。

冒頭で「正確な観察習慣を身につけない限り、われわれがどんなに献身的であっても看護師としては役に立たない。」とナイチンゲールの言葉が語られ、このセミナーの重要性を再認識しました。セミナーでは、意図的に関わる大切さ、観察は常に行うこと、数値のみでなく看護師の五感を使って観察し評価すること、身体の中で起きていることを考える重要性などを学びました。



右から、森NP師長及び上野看護師

参加者からは「意図的な観察力を身に付けるにはどうしたら良いか？」など講義内容を深める多くの質問がありました。また、「臨床経験を交えた講義で理解しやすかった。」「臨床に活かしたいと思った。」などの感想が寄せられ、有意義なセミナーとなりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 臨床倫理学習会開催

令和6年10月19日（土）に、杏林大学保健学部の角田ますみ准教授【写真】による「さまざまな場で実践できるACP（アドバンス・ケア・プランニング）」がオンライン形式で開催され、県内外から81名の参加がありました。

本学習会ではACPに関する基礎知識から実践について、参加受付時に寄せられた事前質問に答える内容を織り交ぜながら、講義をしていただきました。参加者からは、「基本的な内容から実践的な内容まで、事例を用いてとても分かりやすく理解しやすかった。」「様々な病態の方に合わせたACP実践のためのポイントがとても良かった。言葉のかけ方の例も実践しやすく明日からの臨床に活かせる。」な



どの声が寄せられました。

本学習会を通して、ACPの定義や現状、医療従事者に生じやすいACPに関する誤解、ACPを実施するタイミングや状況別の関わり方等、多くを学ぶことができました。

ドクターカーの更新へ ～クラウドファンディングにご協力いただきありがとうございました～

導入から10年が経過したドクターカーを更新するため、「救急の日」である令和6年9月9日（月）から、「だれひとり取り残さない、全患者救命を目指して。」をスローガンとするクラウドファンディングが実施されました。

能登半島地震におけるDMATチーム活動において、現状のドクターカーでは物資輸送力が不十分であったことから、より大型の車種へドクターカーを更新する必要性がありました。また、発生が予想される南海トラフ地震において、本院は基幹災害拠点病院として中心的な役割が求められており、ドクターカーが重要な活動手段になると考えています。

クラウドファンディングによる寄附の募集は、10月31日（木）までの53日の受付期間で実施され、10月13日（日）には、目標としていた13,000,000円を達成、最終的に延べ381名の方から計17,664,000円を



皆さまからお寄せいただいた応援メッセージ

ご寄附いただきました。

また、ご寄附とともに本院への感謝及び応援のメッセージを多数お寄せいただきました。ご寄附・応援いただいた皆さまに感謝申し上げます。今後、いただいた寄附金を元に、ドクターカーの更新を進めさせていただきます。

大学病院の中央診療部に新たな部門設置

骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター

令和6年10月1日（火）付けで、本邦でも数少ない「骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター」が設置されました。

骨粗鬆症を中心としたロコモティブシンドローム（ロコモ）は年々増え続けており、国民病の一つです。健康寿命を損なう主要な原因ですが、その予防と対策は十分ではありません。長野県民の健康寿命を日本一に導いたこれまでの実績と経験を活かして、愛知県の皆さまの健康寿命の延伸に向けた様々な取り組みを展開して参ります。具体的には、自覚症状が少ないため気付かれにくい骨粗鬆症・ロコモの予防・対策を行います。患者さんごとに最新かつベストな

骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター・部長 中村 幸男

栄養（最新のミネラル及びビタミンデータの提供）、体操（私の考案したかかと落とし、おへそひっこみ体操：商標登録済）、薬物療法（世界初のようなデータを発信）を実施し、全国の中でも唯一無二の診療をご提供します。

また、変形性股関節・膝関節症や関節リウマチなどの関節疾患の病態解明、予防対策及び入院手術を含めた診療を行い、安全性と質の高い医療を提供致します。

寝たきりを防ぎ、最後のその瞬間に“びんぴんキ拉里”を実現しましょう。

病院機能評価キックオフ大会開催

令和6年9月30日（月）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、令和7年度に本院が受審を予定している病院機能評価のキックオフ大会が開催されました。

当日は、道勇学病院長からキックオフ宣言がなされ、藤本保志副院長及び市川光生病院事務部長から参加者に向けて遅滞なく準備を進めていくように説明がありました。特別講演として、アルフレッサ株式会社の宮崎芳明氏に「病院機能評価受審に向けて【一般病院3（3rdG:Ver.3.0）】」と題してお話いただきました。

本院は、平成17年から第三者（公益財団法人日本医療機能評価機構）による「病院機能評価」を受審



特別講演を受講する教職員

し、病院組織全体の運営管理や提供される医療等を含めて認定を受けていますが、令和7年10月をもって4回目の認定期間が終了するため、5回目の病院機能評価の受審に向けて準備を進めて参ります。

東名古屋医師会・愛知医科大学病院地域医療連携懇話会開催

令和6年8月24日（土）大学本館たちばなホール及びレストランオレンジにおいて、東名古屋医師会・愛知医科大学病院地域医療連携懇話会及び情報交換会・懇親会が開催されました。東名古屋医師会との地域医療連携懇話会は今回が第1回目の開催となり、本院の診療部長等と東名古屋医師会に所属する医療機関の皆さまとの情報交換及び交流の場として、更なる地域医療連携の絆を深めることを目的に行われました。

地域医療連携懇話会には、祖父江元 理事長，早川真人医師会長（日進胃腸科・外科院長）を始め、90名が参加しました。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の藤本保志部長から「嚥下・音声機能を重視した頭頸部がんの低侵襲治療」について、循環器内科の天野哲也部長から「心不全パンデミック時代における愛知医科大学心不全包括管理センターの役割」について講演がありました。

情報交換会・懇親会では、祖父江理事長，早川医師会長からのごあいさつに続き、永井修一郎医師会副会長（永井内科クリニック院長）による乾杯で始まり、活発な意見交換が行われました。医師会の先



懇話会及び懇親会の様子

生方からは「講演も素晴らしく、美味しい食事をしながら和やかな雰囲気の中、愛知医科大学の先生方が多く参加されたおかげで高校卒業以来となる旧友にも直接会うことができ、楽しく過ごせました。定期開催をしてほしい。」などの感想がありました。最後に道勇学病院長からのごあいさつがあり、情報交換会・懇親会は盛会のうちに終了しました。

啓発イベント「HPVワクチンキャッチアップ接種無料相談会 Inモリコロパーク」開催

ヒトパピローマウイルス（HPV）は、子宮頸がんを始めとする様々ながんの原因となるウイルスです。このウイルスに対するワクチンがHPVワクチンです。HPVワクチンは現在定期接種の対象となっていますが、平成9年度～平成19年度生まれの女性は、接種済みの方が非常に少ない状況です。その方たちを対象として、改めて公費でのワクチン接種の機会が国の施策として設けられることになり、「キャッチアップ接種」として令和7年3月までの期間で実施されています。

本院は厚生労働省からの要請による東海ブロック拠点病院の役目を担っており、HPVワクチンに関する相談支援・医療体制強化のための各種事業を行っています。

その一環として、HPVワクチンのキャッチアップ接種を啓発するイベント「HPVワクチンキャッチアップ接種無料相談会Inモリコロパーク」が令和6年8月12日（月・祝）に愛・地球博記念公園（モ



相談に応じる牛田教授（右）と野口准教授（左）

リコロパーク）で開催されました。このイベントでは、特に若い世代やその保護者を対象に、HPVワクチンの重要性を啓発する活動が行われました。疼痛医学講座の牛田享宏教授，周産期母子医療センターの野口靖之准教授が来園者からの無料相談に応じ、病院職員が啓発物を配布し、キャッチアップ接種の周知に取り組みました。

マネジメントリーダー・スペシャリストリーダー認定証交付式挙行

令和6年9月4日（水）午前9時30分から中央棟3階共同カンファレンスルームにおいて、マネジメントリーダー及びスペシャリストリーダー認定証交付式が挙行されました。

マネジメントリーダーは平成28年度から導入され、今年度は新たに2名の認定、7名の更新が認証されました。看護部管理者は常に変化を恐れず、社会のニーズに対応した変革が求められます。院内のチーム医療に留まらず地域全体の看護の質の向上の要となるように、効果的な人材育成、自己の能力開発に役割発揮されることを期待しています。

また、スペシャリストリーダーは令和元年から導入され、今年で6年目となります。今年度は新たに5名の認定、6名の更新が認証されました。今後、先見性と広い視野を持ち、専門性及びリーダーシップを発揮しながら組織横断的な活動だけでなく、地域へと発展的に活躍していくことを期待しています。



マネジメントリーダー認定者



スペシャリストリーダー認定者

看護師特定行為研修フォローアップ研修開催

令和6年10月6日（日）シミュレーションセンターにおいて、第4回看護師特定行為研修フォローアップ研修がZoom配信を併用したハイブリッド形式で開催され、学内学外から63名の参加がありました。

本院は、令和2年度から看護師特定行為研修の指定研修機関として厚生労働省の認可を受け、現在はクリティカル領域、創傷管理領域、ジェネラル領域の3領域を開講しています。本院の特定行為研修は、急性期医療に加えて在宅医療、地域医療までを支えられる人材、また、地域・施設間の連携に参画できる人材育成を目指しています。

今回は、特定行為研修修了者に求められる多職種協働のためのコミュニケーションスキルをテーマに開催されました。多職種協働におけるコンピテンシーについて、慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター医師の春田淳志先生にご講演いただいた後、



研修を受ける様子

パネルディスカッションとして他職種からみた特定行為研修修了者について、医師、理学療法士及び管理栄養士の視点からご発表いただきました。参加者からは、「多職種と連携するために、それぞれの職種のタスクを理解し、関係性を構築していく必要性があることを改めて学んだ。」との感想がありました。

学生アルバイト「愛Crew」集合研修実施 ～業務拡大第2弾・整容ケア(イブニングケア・ひげそり)～

令和6年10月12日(土)午前10時から大学本館303講義室において、学生アルバイト「愛Crew」集合研修が実施され、57名が受講しました。

集合研修では、井上里恵看護部長から「看護職と看護補助者との協働」、看護業務負担軽減委員会の内村政信看護師長から「整容ケア:イブニングケア・ひげそり」の講義があり、看護チームにおける看護補助者の役割・業務、イブニングケア・ひげそりについての基礎知識を学びました。

また、講義後には、看護部副部長及び看護業務負担軽減委員会委員がファシリテーターとなり、イブニングケア・ひげそりの演習が行われました。演習では、愛Crewが2名1組となり、愛Crew役・患者役を交互に体験し、患者さんの歯磨きやタオルでの顔拭きの介助を実施することで、業務拡大に向けて技術を習得しました。愛Crewは、積極的に研修に参加しており、研修後の振り返りでは多くの学びが発表され、将来医療従事者となる愛Crewへの期待が高まりました。



イブニングケア・ひげそり演習に臨む愛Crew

研修後には懇親会が行われ、井上看護部長を始め、看護部副部長、同委員会委員、病院事務部診療支援課員と愛Crewがレストランオレンジにて食事をもに、コミュニケーションが図られました。また、愛Crewからの要望を直接聞く機会となったことから、貴重な意見を今後の業務改善に繋げる予定です。

今回の研修を通し、愛Crewの皆さんが看護チームの一員としての意識を高め、看護師の業務負担軽減に向けて更に活躍できることを期待しています。

高校生一日看護体験研修実施

愛知県看護協会からの依頼を受け、令和6年8月7日(水)に高校生一日看護体験研修が実施されました。この研修は、実際の看護場面を見学・体験することで、これからの社会を担っていく高校生に看護の心を理解してもらうとともに、この体験を契機として看護職を志望する者の増加を図ることを目的に実施しています。

今年は、近隣の高校から男女合わせて25名の生徒が参加しました。病棟で看護師と一緒に行動しながら患者さんとふれあい、また、お互いに血圧測定をしたり、車いす移送をしたりと患者体験及び看護師体験が行われました。実際に看護師が働く姿を見ることで高校生からは、「てきぱき働く看護師の姿を見て私もそのような看護師になりたいと思った。」



ドクターヘリ前での記念撮影

「オープンキャンパスでは分からない職場の雰囲気を知ることができた。」などの意見が聞かれました。

この研修を通して、多くの高校生に、看護のみならず医療に関わる仕事を目指したいと思っていただけることを期待します。

メディカルセンター令和6年度第1回防災訓練実施

令和6年9月5日（木）、愛知医科大学メディカルセンターにおいて令和6年度第1回防災訓練が実施されました。

今回の訓練では、災害想定を「震度5弱の地震発生（建物倒壊なし）。その後、火災発生」とし、訓練目的としては、「①災害時の確認事項のポイントを理解した上でのスムーズな本部の報告と対応の確認及び実践、②災害対策本部の統括機能の実践、③緊急時災害対策本部グループ連絡体制の活用」の3点を掲げました。防災に関して各部署で調整するきっかけとなるよう、現場の詳細な動きは決めず、「地震発生・本部設置・火災発生・通報・避難」のシナリオを設定しました。

訓練開始に当たり、災害対策委員長の勝野敬之教授（特任）から「今回の訓練を通して災害発生時の対応を再確認していただきたい。」とあいさつがあり、災害対策本部長である羽生田正行病院長からの指示出しにより訓練がスタートしました。各部署から選出された「消火班」、「避難誘導班」、「連絡通報班」の担当者によって、患者、職員及び施設等の状況が本部へ集約され、本部内での情報共有や指示出しの確認が行われました。

また、メディカルセンターの夜間帯は、当直の医師2名のみ、更に午後9時以降には管理師長が不在となるなど、緊急時に現場で対応できる人数が限られているため、その状況下でより早い情報の共有及び現場への指示出しができるよう、今年度は災害対策本部の構成員でLINEグループを作成し、緊急時の連絡手段を改めて確認しました。更に、エアストレッチャーを使用した患者搬送訓練、水消火器を用いた初期消火訓練、非常用トイレの実演も実施されました。

訓練後、羽生田病院長から「今年は能登半島地震、南海トラフ地震臨時情報の発令など災害がとても身近に感じられる。緊急時のLINEを用いた連絡体制の活用等、日頃から災害に対する意識をもって業務に当たってもらいたい。」との総評がありました。

今回の訓練に関して、メディカルセンター職員対象のアンケートを実施し152名からの回答があり、「災害時に使用する物品を充実させてほしい。」「職員全員が災害時に対応できるようにする必要がある。」「参加できなかったスタッフのためにも後



災害対策本部への状況報告



水消火器での消火訓練



エアストレッチャーを使用した搬送訓練



非常用トイレ実演の様子

日動画配信をしてほしい。」など多数の意見があり、センター職員の防災意識の高さが伺えました。

令和6年度第2回の実施は夜間帯の発災を想定し、病棟に特化した訓練を予定しています。今後も現場の意見に耳を傾け、今回の訓練での課題点を検証し、一層実効性のある訓練の実施に努めていきます。

愛恵会／簡易郵便局のご案内

日頃から、愛知医大病院内簡易郵便局及びゆうちょ銀行ATMをご利用いただき誠にありがとうございます。

本院内簡易郵便局は、昭和61年5月に患者さんや教職員の便宜を図るため、旧病院3階に開局されました。平成19年10月の郵政民営化に伴い、簡易郵便局の運営が個人受託から法人受託に変更され、一般財団法人愛知医科大学愛恵会が受託者として簡易郵便局を運営しております。

現在の簡易郵便局【写真】は、平成26年5月の新病院開院に併せて中央棟2階に移設され、セブンイレブンなどサービス部門フロアの並びに位置して

○営業日及び営業時間

【窓 口】

平 日：午前9時～午後4時

土日・休日：お休み

【ATM】

平 日：午前9時～午後5時

土 曜 日：午前9時～午後0時30分

日曜・休日：お休み

※但し、12月29日～1月3日はお休み



おります。

皆さまにおかれましては、身近な金融機関として、窓口・ATMをもっと便利にご活用ください。

○主な業務

郵便：切手印紙等販売、郵便・小包受付、
ゆうプリタッチ配備

貯 金：入出金、振込み、為替

保 険：保険料払込

その他：ご不明な点があれば窓口でご相談
ください。

産婦人科学講座 渡辺 員支教授 令和6年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰受賞

産婦人科学講座の渡辺員支教授【写真】が、令和6年9月9日（月）に東京都の都道府県会館101大会議室で開催された救急医療功労者及び産科医療功労者厚生労働大臣表彰式において、令和6年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞しました。

この賞は、渡辺教授が長らく妊娠及び産後女性に対する実際の産科医療を担うとともに、医師、助産師及び医療スタッフの教育にも尽力してきたこと、地域周産期医療全体を網羅した医療の実践と発展のために尽力し、多大な社会貢献を果たしてきたことが評価されたものです。

受賞した渡辺教授からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。これまでご指導いただいた諸先生方、一緒に産科医療を担ってきた医療スタッフの皆さまに感謝致します。今後もお一層精進し、産科医療に貢献していく所存でございます。」との感想がありました。



救急診療部 加納 秀記教授 令和6年防災功労者防災担当大臣表彰

救急診療部の加納秀記教授【写真】が、令和6年9月11日（水）午後1時30分からホテルルポール麹町において、令和6年防災功労者防災担当大臣表彰を受賞しました。

この賞は、防災に関し、災害時の防災活動の実施、防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著である者と認められ授与されたものです。

受賞した加納教授からは、「この度、防災功労者防災担当大臣表彰をいただき、誠に光栄に思っております。DMAT隊員として被災地での活動だけではなく、隊員養成の教育や災害訓練など、体制整備が評価されました。これからもチーム愛知医大で活



動していきたいと思います。」との感想がありました。

福澤 嘉孝名誉教授 The Best Doctors in Japan 6回選出の快挙

令和6年6月に福澤嘉孝名誉教授【写真】が、ベストドクターズ社のThe Best Doctors in Japan (2024-2025) に選出され、6回目の選出となる快挙を遂げられました。

ベストドクターズ社は、平成元年にハーバード大学医学部の医師達により設立され、世界各国の優れた医療専門家のデータベースを提供し続けるとともに、各分野における優れた医師を調査しています。日本では約34万人の医師（令和4年12月31日時点）が存在する中、ベストドクターズに選出されるのは僅か約7,100名です。

選出された福澤名誉教授からは、「この選出に6回選出されることは同業の医師から高い評価を得ているだけではなく、非常に稀（種々評価項目を含め一定の確率で選出される医師が6回選ばれる確率は、僅か数%未満）なことだと言えます。私の専門分野においては、知識や技術だけでなく、患者さんに対する理解や配慮も大切にしています。医療界の競争が激しい中で継続的に評価をいただけることは、常に新しい研究や情報に触れ、それを実践に活かす努力をしている結果だと思います。また、ノーバイアスな他の医師から推薦を受け認定（選出）されることから、信頼性が高いことに感激しております。私は、日本の医療システムの中で、一人の医師として、患者さんや医療機関から信頼される存在でありたい



と常々考えています。専門性や倫理観、そして、豊富な臨床経験をもとに、医療の質を向上させることに日々尽力しています。これらの努力が、少しでも多くの方々に好影響を与えられることを祈念しております。このたびは、素晴らしい名誉ある認定（選出）をいただけたことに、心より感謝申し上げますとともに、これからも日々精進し、より良い質の高い医療を提供できるよう微力ながら努力して参ります。今後ともご支援、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。」との感想がありました。

福澤名誉教授の過去の受賞歴は、リサーチマップ (<https://researchmap.jp/read0174798>) からご参照ください。

内科学講座（肝胆膵内科）井上 匡央准教授 第60回日本胆道学会学術集会 2024年度日本胆道学会国際交流奨励賞受賞

内科学講座（肝胆膵内科）の井上匡央准教授が、令和6年10月10日（木）・11日（金）にウイנקあいちで開催された第60回日本胆道学会学術集会において、2024年度日本胆道学会国際交流奨励賞を受賞しました。

この賞は、Asia Pacific Digestive Week 2023（アジア太平洋消化器病週間2023）において、井上准教授が口演発表を行った「Endoscopic radiofrequency ablation for ingrowth occlusion following bilateral metal stenting for malignant hilar biliary obstruction」が胆道病学の発展に寄与する優秀な演題として高く評価されたものです。

受賞された井上准教授からは、「この度は大変名誉ある賞をいただき身の引き締まる思いです。改め



左から、井上准教授及び日本胆道学会の安田一朗理事長

まして研究遂行並びに演題発表にご助力いただいた全ての先生方に厚く御礼申し上げます。引き続き微力ながら本学の発展に貢献できますよう精進して参ります。」との感想がありました。

内科学講座（糖尿病内科）加藤 誠助教 第23回日本先進糖尿病治療・ 1型糖尿病研究会若手研究奨励賞受賞

内科学講座（糖尿病内科）の加藤誠助教が、令和6年10月12日（土）・13日（日）に富山国際会議場で開催された第23回日本先進糖尿病治療・1型糖尿病研究会において、若手研究奨励賞を受賞しました。

この賞は、加藤助教の発表演題「膵島移植におけるヒト乳歯歯髄幹細胞（SHED）の免疫学的有効性の検討」が、糖尿病学の発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した加藤助教からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。これも内科学講座（糖尿病内科）の神谷英紀教授、恒川新教授（特任）、外科学講座（腎移植外科）の小林孝彰教授、石山宏平准教授（特任）並びに腎疾患・移植免疫学寄附講



加藤助教（中央）と大会主催関係者

座の岩崎研太准教授を始め、皆さま方のご指導及びご協力のお蔭と感謝しております。今後もなお一層精進していく所存でございます。」との感想がありました。

糖尿病内科 幸野 正希助教（専修医） 第98回日本糖尿病学会中部地方会若手優秀演題賞受賞

糖尿病内科の幸野正希助教（専修医）が、令和6年9月14日（土）・15日（日）に金沢市文化ホールで開催された第98回日本糖尿病学会中部地方会研究発表の部において、若手優秀演題賞を受賞しました。

この賞は、幸野助教（専修医）の発表演題「腎移植後糖尿病における血糖降下薬の有効性の検討」が、糖尿病学の発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した幸野助教（専修医）からは、「このような名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。ご指導、ご協力いただきました皆さまには心より感謝申し上げます。今回のテーマにおいて、更なる検討



左から、幸野助教（専修医）及び指導教授の神谷英紀教授

の必要があると考えておりますので今後の発展に寄与できるよう精進していく所存でございます。」との感想がありました。

看護部 鈴木 孝宗看護師 第98回日本糖尿病学会中部地方会若手優秀演題賞受賞

看護部の鈴木孝宗看護師が、令和6年9月14日（土）・15日（日）に金沢市文化ホールで開催された第98回日本糖尿病学会中部地方会コメディカル・スタッフの部において、若手優秀演題賞を受賞しました。

この賞は、鈴木看護師の発表演題「フットケア外来受診中断患者の下肢切断に至った1例」が、糖尿病学の発展に大きく寄与するものとして評価されたものです。

受賞した鈴木看護師からは、「この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。発表に関わっ



左から、鈴木看護師及び指導教授の神谷英紀教授

てくださった皆さま方のご協力及びご指導のおかげと感謝しております。今後もなお一層精進していく所存でございます。」との感想がありました。

学 術 振 興

研究課題「脳を標的とした痛覚神経性免疫寛容機構の解明」が 国立研究開発法人科学技術振興機構「創発的研究支援事業」に採択



国立研究開発法人科学技術
振興機構（JST）が実施する
創発的研究支援事業について、
本学医学部薬理学講座の丸山
健太教授【写真】の研究課題

「脳を標的とした痛覚神経性
免疫寛容機構の解明」が採択され、同機構と委託研
究契約が締結されました。

この事業は、特定の課題や短期目標を設定せず、
多様性と融合によって破壊的イノベーションにつな
がるシーズの創出を目指す「創発的研究」を推進す
るため、既存の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・
融合的な多様な研究に対し長期的にJSTが支援する
ものです。本事業においては、JSTが選定した個人
研究者のメンタリング等を行うプログラムオフィ
サーの下、個人研究者の能力や発想を組み合わせる
「創発の場」が設けられ、また、柔軟な研究中断と

それに伴う延長制度や、研究環境改善のための追加
的な支援が計画されており、優れた人材の意欲と研
究時間を最大化し、破壊的イノベーションにつな
がるシーズの創出が目指されています。

丸山教授の研究課題では、痛覚神経の内分泌を介
した脳を標的とする免疫寛容の分子機構を解明し、
敗血症に対する革新的な救命法の開発に資する基礎
的知見の獲得を目指しています。研究課題の選定を
受けた丸山教授からは、「この度、私の申請した研
究計画が創発的研究支援事業に選定され、ご支援・
ご指導を賜りました皆さまに衷心より感謝申し上げ
ます。私の提唱する『感覚免疫学』にダイナミック
な概念的進歩をもたらす知見を、自然と文明が美し
く調和する長久手から世界へ発信するべく、今後も
サイエンスを楽しんでいきたいと思います。」との
感想がありました。

令和6年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 増額に伴う委託研究開発変更契約の締結

令和6年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題について、委託研究開発費の増額に伴い、次のとおり変更契約を締結しました。

（金額単位：円）

研究事業名	研究開発担当者	委託研究 開発費	増額後委託 研究開発費 (増加額)	研究開発課題名
医療機器等研究成果 展開事業	井上 匡央 医学部 内科学（肝胆膵内科）、准教授	26,000,000	196,541,800 (170,541,800)	内視鏡的胆管内バルーンアブ レーション治療に関する研究 開発

- ・ 令和6年8月1日から10月31日までに日本医療研究開発機構と変更契約を締結した代表課題を記載。
- ・ 委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

令和6年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和6年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
挑戦的研究（萌芽）	岩崎 研太 医学部 腎疾患・移植免疫学寄附講座、准教授	3,100	930	ヒトnaive B細胞から抗原特異的抗体産生細胞をin vitroで作成する画期的手法の開発
研究活動スタート支援	後藤 瑛一 医学部 解剖学、助教	1,600	480	3Dバイオプリンターと生体適合性材料HPMCを適用した抗真菌薬含有眼科用パッチの開発

- ・ 令和6年10月31日時点の情報を掲載。
- ・ 課題番号順にて記載。
- ・ 氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・ 「交付決定通知」を基に作成。
- ・ 今年度請求額を記載。

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員としての来学された方をご紹介します。（敬称略）



ロレンツォ リベッタ
Lorenzo Ripetta

国 籍：アルゼンチン
現 職：ブエノス・アイレス医科大学、眼科助教

受入講座：眼科学講座

受入期間：R6.9.1～R7.8.31（12か月）

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特性の解明と、手術後の組織腫脹を最小限に抑える手術方法の開発



ウィサム サウド アフマド アフマド
Wisam Saud Ahmed Ahmed

国 籍：イラク
現 職：ニナワ医科大学、消化器外科教員

受入講座：外科学講座（消化器外科）

受入期間：R6.10.1～R6.10.31（1か月）

研究課題：鏡視下手術の技術の習熟



クリシャ フェイエ T ハバルヤス
Chrisha Faye T. Habaluyas

国 籍：フィリピン
現 職：アマンロドリゲス記念病院、訪問コンサルタント

受入講座：眼科学講座

受入期間：R6.9.1～R7.8.31（12か月）

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特性の解明と、手術後の組織腫脹を最小限に抑える手術方法の開発

学位授与

◆大学院医学研究科



神谷 圭介

学位授与番号 甲686号

学位授与年月日 令和6年9月12日

論文題目:「Role of endothelial hyaluronan in peritoneal membrane

transport and disease conditions during peritoneal dialysis (腹膜透析患者の腹膜透過性における腹膜 glyocalyx ヒアルロン酸の役割)」



福重 香

学位授与番号 甲687号

学位授与年月日 令和6年9月30日

論文題目:「Regional variations and sex-related differences of stiffness

in human tracheal ligaments (ヒト気管に存在する靱帯の硬さ-部位差と性差-)」



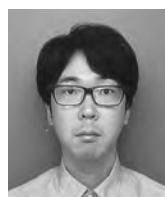
古田 ちひろ

学位授与番号 乙433号

学位授与年月日 令和6年9月12日

論文題目:「Prospective Observation Study for Primary

Spontaneous Pneumothorax: Incidence of and Risk Factors for Postoperative Neogenesis of Bullae (原発性自然気胸に対する前向き観察研究:術後ブラ新生の発生率とリスク因子)」



山本 貴浩

学位授与番号 乙434号

学位授与年月日 令和6年10月24日

論文題目:「Clinical characteristics and pathological features of

undetectable clinically significant prostate cancer on multiparametric magnetic resonance imaging: A single-center and retrospective study (マルチパラメトリックMRIで同定できない臨床的に意義のある前立腺癌の病理学的特徴)」

◆大学院看護学研究科



坂田 美樹

学位授与番号 第187号

学位授与年月日 令和6年9月18日

論文題目:「人工呼吸器関連事象 (Ventilator Associated

Events:VAE) サーベイランスと人工呼吸器関連肺炎 (Ventilator Associated Pneumonia:VAP) サーベイランスのサーベイランス定義における肺炎の判定の比較検討」

令和7年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数 (件)	申請金額 (千円)
学術変革領域研究 (A) (公募研究)	3	7,900
基盤研究 (B) (一般)	10	68,853
基盤研究 (C) (一般)	103	186,072
挑戦的研究 (開拓)	2	13,850
挑戦的研究 (萌芽)	6	11,590
若手研究	45	91,010
合 計	169	379,275

※令和6年10月1日時点での数字を掲載。

※申請金額は令和7年度の申請額。

研究助成等採択者

◇公益財団法人愛知腎臓財団 研究助成

・氏 名 河田賢（腎移植外科・助教(医員助教)）
研究題目 抗体関連型拒絶反応における immunogenetic peptide の 機序解明
助成金額 300,000円

◇公益財団法人愛知腎臓財団 研究助成

・氏 名 鬼無洋（内科学講座(腎臓・リウマチ膠原病内科)・准教授(特任)）
研究題目 CKDにおける過剰塩分摂取に起因する炎症による全身臓器障害の病態解明
助成金額 300,000円

◇MSD株式会社 MSD医学教育事業助成

・氏 名 渡邉栄三（救急集中治療医学講座・教授）
研究題目 多職種協働による臓器提供体制の普及と啓発を目的とした教育事業
助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人大幸財団

自然科学系学術研究助成

・氏 名 丸山健太（薬理学講座・教授）
研究題目 痛覚神経によるウイルス免疫寛容機構の解明
助成金額 5,000,000円

◇HOYA株式会社 研究助成

・氏 名 山本敬子（眼科・助教(医員助教)）
研究題目 活性化プロテインCの網膜色素変性モデルマウスへの有用性
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人日東学術振興財団 研究助成

・氏 名 伊藤誠（放射線科・講師）
研究題目 リアルワールドデータを用いた高リスク前立腺がん克服のための新たな標準治療の開発
助成金額 2,000,000円
・氏 名 永沢亮（感染・免疫学講座・助教）
研究題目 レンサ球菌の薬剤耐性化・高病原化を助長する原因の究明
助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人日東学術振興財団 海外派遣助成

・氏 名 福島拓（医学研究科・大学院生）
研究題目 Cell Bio 2024
助成金額 500,000円

◇公益財団法人日本対がん協会

「プロジェクト未来」研究助成

・氏 名 都築忍（生化学講座・教授(特任)）
研究題目 急性リンパ性白血病に治療抵抗性を付与する新規機構の解明とその対策
助成金額 1,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

- ・第32回日本発汗学会総会
- ・第33回愛知眼科フォーラム
- ・第47回日本膵・胆管合流異常研究会
- ・第2回長久手リハビリテーション医療地域連携フォーラム
- ・第46回日本法医学会学術中部地方集会
- ・第21回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究集会
- ・第22回新生児黄疸管理研究会

【開催日】

令和6年8月30日(金)・31日(土)
令和6年9月1日(日)
令和6年9月7日(土)
令和6年9月20日(金)
令和6年10月5日(土)
令和6年10月5日(土)
令和6年10月5日(土)

【会長等】

大嶋雄一郎
瓶井 資弘
金子健一郎
尾川 貴洋
妹尾 洋
齊藤 卓也
奥村 彰久

第32回日本発汗学会総会

皮膚科学講座・教授(特任) 大嶋 雄一郎

令和6年8月30日(金)・31日(土)の2日間、ウインクあいち(愛知県産業労働センター)において、第32回日本発汗学会総会を開催しました。当初、現地開催のみの予定でしたが、稀に見る日本をゆっくりと横断した台風の影響で、演者や座長の方々が現地に来ることができず、急遽ハイブリッド開催に変更しました。開催3日前の変更でしたが、無事に開催することができました。

人間は発汗機能を獲得したことにより、体温を上昇することなく長距離の移動ができるようになりました。しかし、現代では「汗で体がベタベタするのが嫌だ」、「汗臭い」、「汗じみができる」など汗は悪者扱いされることが多くなり、運動を避け、エアコン生活を送る人が増えてきています。そこで総会の

テーマは「発汗学を極める～汗は味方？悪者？～」とさせていただきます。

特別講演は汗腺系皮膚癌の分子構成、更年期障害と発汗について、シンポジウムではパラアスリートの発汗機能、多汗症に対する手術療法、特発性後天性全身性無汗症の治療について企画し、一般演題は20演題を準備することができました。皮膚科だけでなく、脳神経内科、生理学、理工学及び呼吸器外科など発汗学に興味がある多くの方に参加していただき、先生方には更に汗専門医(汗マニア)になっていただけたと思っております。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第33回愛知眼科フォーラム

眼科学講座・教授 瓶井 資弘

愛知眼科フォーラムは、年に一度、本学眼科学講座が主催し、一般眼科医、視能訓練士に公開している眼科全般の学会です。本年度は令和6年9月1日(日)に名古屋市中区栄の興和株式会社本社ビルにおいて第33回大会を開催致しました。【写真】

特別講演では近畿大学医学部眼科教室の日下俊次主任教授をお招きし、「難治性網膜硝子体疾患に対する硝子体手術」と題してご講演いただき、Young Investigator講演では順天堂大学医学部附属浦安病院眼科の大内亜由美准教授をお招きし、「多面的アプローチによる糖尿病網膜症の臨床と基礎」と題してご講演いただきました。

また、本学眼科学講座と関連病院から19題の一般演題の発表があり、いずれも高度な眼科医療、高い水準の研究を示すもので、活発な質疑応答が行われ、



盛会のうちに終了することができました。

最後に、本学会を開催するに際しまして、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたこと、この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

第47回日本膵・胆管合流異常研究会

外科学講座（消化器外科）・教授（特任） 金子 健一郎

令和6年9月7日（土）ウインクあいちにおいて、第47回日本膵・胆管合流異常研究会を開催致しました。多くの医療関係者にはあまり聞き慣れない本研究会は、オタクの会と揶揄されながらも半世紀近く存続しています。合流異常は先天性胆道拡張症や胆道癌と深い関わりを持ち、先天性形成異常が癌を発生させるということで小児外科、消化器外科、消化器内科、病理の各科の研究者が集い、医学の重箱の隅をつつく異種格闘大会であります。欧米には少ない病気のため、日本での研究が世界最先端であり、平成29年に医学雑誌『Lancet』が姉妹誌『Lancet Gastroenterol Hepatol』を創刊した際はreviewを依頼され、また、本研究会が提唱したpancreaticobiliary maljunctionという用語はnative reviewerからnot Englishと批判されました（malunionの方が英語的らしい）が、令和2年

にPubMedのMeSHとして採用されるなど、研究会の成果は徐々に形となりつつあります。今回の研究会では、本疾患をlife workとする私が各セッションの冒頭で研究会の歴史を踏まえた短い基調講演を行い、続く演題の問題点を含めておいたところ、案の定、議論は沸騰し、午後のセッションでは各座長が時間を気にしなくなり、延長会場使用費発生というオチがつかしました。

終了後には参加者の半数近くから感想メールをいただき、大成功だったと思われます。本研究会で癌遺伝子や非拡張合流異常に関する新しい知見や方向性もみられ、少しだけ時計の針を進めることができたと自負しております。

本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたことを、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

第2回長久手リハビリテーション医療地域連携フォーラム

リハビリテーション医学講座・教授 尾川 貴洋

令和6年9月20日（金）本学において、第2回長久手リハビリテーション医療地域連携フォーラムを開催致しました。【写真】本フォーラムは、リハビリテーション医療において病院間の連携が十分ではない現状を踏まえ、この地域における連携の活性化と、患者さん中心のリハビリテーション治療の発展を目指して昨年から始めたものです。

今回のフォーラムでは、日進おどりど病院、東海記念病院、メディカルセンターのリハビリテーション診療の紹介に加え、本院の医療ソーシャルワーカーの松村香織主任（医療福祉相談部社会福祉士）、みよし市民病院の伊藤院長からもご講演をいただきました。単なるリハビリテーション治療の枠を超え、多職種連携を深める貴重な機会になったと感じております。

リハビリテーション治療は、スタッフ一人ひとりの考えや行動が患者さんに大きな影響を与えますが、



より多くの多職種が関わることでその効果は更に高まります。そうした意味でも、このフォーラムは非常に重要な意義を持つものとなりました。

最後に、フォーラムの開催に当たり、多大なるご支援とご協力をいただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

第46回日本法医学会学術中部地方集会

法医学講座・教授 妹尾 洋

令和6年10月5日（土）本院C棟C201講義室において、第46回日本法医学会学術中部地方集会を開催しました。本会は中部地区（愛知、三重、岐阜、静岡、山梨、長野、福井、石川、富山及び新潟）の14大学、研究所等に在籍する日本法医学会の会員を中心とした、解剖症例報告や研究成果の発表が行われる会です。

毎年持ち回り幹事形式で運営されており、本年度は愛知医科大学が担当幹事となるため、本学にて開催しました。それぞれ大変貴重な経験をもとに発表され、質疑応答も活発に行われました。中でも、令和6年能登半島地震において自らが「災害死亡者家族支援チーム」（日本DMORT）として現地へ派遣

され、遺体安置所で役立つ遺族への「心のケア」の重要性などを経験された報告では、参加者に大変興味を持っていただき、有意義な意見交換ができました。

また、多数の警察関係者にもご参加いただき、72名という、当初想定していた参加人数よりも多くの方にお集まりいただき、無事に会を勤めることができました。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり一般財団法人愛知医科大学愛恵会からのご支援を賜りまして誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

第21回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究集会

外科学講座（消化器外科）・准教授（特任）／腹部ヘルニアセンター 齊藤 卓也



令和6年10月5日（土）名古屋市中区栄のデザインホールにおいて、第21回日本ヘルニア内視鏡外科手術手技研究集会を開催致しました。【写真】同日には日本ヘルニア学会による教育セミナーも併催され、全国の外科医の皆さまと知見及び経験を共有する貴重な場となりました。

本学外科学講座（消化器外科）ではヘルニア領域においても腹腔鏡手術やロボット手術の推進に注力しており、将来的なロボット支援鼠径部ヘルニア修復術の保険収載も視野に入れた臨床・研究活動に積極的に取り組んでいます。今回は「FUSION in Hernia Repair：ラパヘルとロボヘルの融合」をテーマに、鼠径部ヘルニア修復術における内視鏡手術の現状と課題を掘り下げ、最先端技術との融合がもたらす医療の未来像について多角的な議論を目指すこととしました。



当日は全国各地から約250名の外科医・医療関係者が参加し、対面での活発な討論が展開されました。参加者同士が現場での知見を共有し合い、互いに学びを深めながら、鼠径部ヘルニア診療の未来を築く新たな一歩を踏み出す意義深い集会となりました。

本研究会の開催に当たり、多大なご支援を賜りました一般財団法人愛知医科大学愛恵会に心より厚く御礼申し上げます。今後も患者さんにとってより良い腹部ヘルニア診療の構築に向け、更に尽力して参ります。今後ともご支援・ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

第22回新生児黄疸管理研究会

小児科学講座・教授 奥村 彰久

令和6年10月5日（土）名古屋大学医学部医系研究棟1号館において、第22回日本新生児黄疸管理研究会を開催しました。本研究会は、日本全国から新生児の黄疸管理に関心がある医師やコメディカルの皆さまが集う研究会です。ややマニアックな研究会ではありますが、毎回活発な議論が行われます。今回は参加者の利便性も考慮し、ハイブリッド開催としました。

最終的な参加登録者は97名で、そのうち約40名の方が現地に来場しました。ビリルビン連続測定に関する特別講演、光療法に関する教育講演、二つのシンポジウムに一般演題と盛りだくさんのプログラムになりました。また、会場ではたくさんの質問があ

り、活気のある研究会になりました。特に、ビリルビン連続測定の実践に関する特別講演には、参加者の多くが強い興味を示しており、このような機会から医工連携のシーズが生まれることが期待できそうです。

本研究会の開催に当たっては、本学小児科学講座及び名古屋大学小児科の皆さまの献身的なご協力をいただきました。更に、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご支援をいただきました。おかげさまで、大きなトラブルもなく無事に研究会を終えることができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

寄附行為の全部改正

学校法人愛知医科大学寄附行為の全部が改正され、令和7年私立学校法改正に伴う必要事項が整備されました。

施行日は令和7年4月1日

アドミッションセンター設置に係る関係規則の整備

大学附属施設としてアドミッションセンターが設置されたことに伴い、必要事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年9月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学事務組織規程
- ・事務組織の所掌事務細目について（法人本部長裁定）
- ・医学部事務部事務分掌について（法人本部長・事務局長裁定）
- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・管理職手当に関する細則
- ・愛知医科大学医学部入試委員会規程
- ・愛知医科大学看護学部入試委員会規程
- ・愛知医科大学看護学部広報委員会規程

エネルギーの使用の合理化に関する規程の一部改正等

関係法令の改正に伴い、必要事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年9月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学エネルギーの使用の合理化に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学省エネルギー推進委員会規程

学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され、令和7年度における医学部愛知県地域特別枠の入学定員について、令和6年度に引き続き10名とすることになりました。

施行日は令和7年4月1日

看護学部履修規程の一部改正

愛知医科大学看護学部履修規程の一部が改正され、授業科目の開講学期等が改められました。

施行日は令和7年4月1日

看護学部倫理審査等実施規程の一部改正

愛知医科大学看護学部倫理審査等実施規程の一部が改正され、多機関共同研究における一括審査に係る必要事項が整備されました。

施行日は令和6年10月8日

医療安全管理委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院医療安全管理委員会規程の一部が改正され、委員会での審議事項が明確化されました。

施行日は令和6年11月1日

骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター設置に係る関係規則の整備

中央診療部に新たに骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センターを設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年10月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター規程
- ・愛知医科大学病院骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

看護部規程の一部改正

愛知医科大学病院看護部規程の一部が改正され、看護部の部門として新たに特定行為研修センターが設置されました。

施行日は令和6年10月1日

メディカルセンター医療サービス向上委員会規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター医療サービス向上委員会規程の一部が改正され、委員構成が改められました。

施行日は令和6年10月1日

編 集 後 記

☆ 令和6年度総合防災訓練（関連記事3頁）では、南海トラフ地震を想定し、大学、病院、法人部門の三部門に分かれて訓練が行われました。年始に発生した令和6年能登半島地震の被害は記憶に新しく、自分事として真剣に取り組む学生及び教職員の背中を本号の表紙と致しました。

災害発生時に本院に求められる機能を発揮できるよう、また、ご自身の身を守る行動が取れるよう、日常から訓練に取り組んでいただきたいと思います。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は、総務広報課までご連絡ください。



X



Instagram

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u)
では大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第176号

発行年月日 令和6年10月31日

発 行 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 祖父江 元

編 集 人 羽根田 雅巳

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学事務局総務部総務広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 62-1063 (直通)